

2

Annual Report 2017

診 療 部

外来診療担当表
呼吸器内科
腎臓内科
脳神経内科
リウマチ・膠原病センター
糖尿病センター
消化器内視鏡センター
人工透析センター
循環器内科
外科
整形外科
脳神経外科・脳血管内科
心臓血管外科
皮膚科
小児科

泌尿器科
眼科
耳鼻咽喉科
放射線科
麻酔科
病理部
認知症疾患医療センター
歯科
健康増進センター
研修医の紹介
学会賞等受賞記念学術講演会
学会発表実績

外来診療担当表

◎は新患のみ、○は新患・再診、□は再診のみ
※2018年7月現在

科名	役職	氏名	月		火		水		木		金	
			午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内科	呼吸器	診療部長	副島 佳文			○	○	◎				□
		副部長	小林 奨						○			
		非常勤	荒木 智絵	□								
	内分泌	非常勤	宇佐 俊郎									□ 第4週
		非常勤	安部 恵代						□ 第2週			
	腎臓内科	医 長	上条 将史		◎					□		
		医 員	大塚絵美子				□					
		非常勤	林 和歌								○	□
	脳神経内科	副院長 診療部長	竹尾 剛	□		□		◎				□
		非常勤	中村 龍文						○ 隔週			
	リウマチ 膠原病 センター	臨床研修・ 研究統括部長	植木 幸孝	○	□			○		○		□
		センター長	寺田 馨									□
		部 長	荒牧 俊幸	□						□		
		医 員	來留島章太					□		□		
		医 員	小島加奈子	□								○
		顧 問	江口 勝美			○						○
		非常勤	一瀬 邦弘			○	□					
	糖 尿 病 セ ン タ ー	非常勤	岩本 直樹			○	□					
		センター長	松本 一成	□		□		□		◎		
		医 員	明島 淳也	◎				□		□		□
医 員		笹村明香里	□		□		◎				□	
非常勤		魚谷 茂雄									◎	
消 化 器 内 視 鏡 セ ン タ ー	非常勤	古賀萌奈美			◎							
	理 事 長	富永 雅也				□						
	副院長 センター長	木下 昇		○							○	
	診療部長	小田 英俊					○		○			
	副部長	加茂 泰広	○						○			
	副部長	吉村 映美			○		○					
	医 長	高木 裕子									○	
	医 員	佐藤 航平			○							
	非常勤	草場麻里子	○									
眼 科	非常勤	竹島 史直				□ 隔週						
	副部長	和田 光代	○						○		□	
人工透析センター	非常勤	担 当 医					□					
	医 長	上条 将史	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	医 員	大塚絵美子	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
循 環 器 内 科	非常勤	林 和歌	○	○			○	○			○	
	副院長 診療部長	木崎 嘉久	◎				□		◎		□	
	部 長 救急部長	中尾功二郎					◎		□		□ (不整脈)	
	医 長	落合 朋子	□				□					
	医 員	吉村 聡志			□						□	
非常勤	矢野 捷介			○						○		

科名	役職	氏名	月		火		水		木		金		
			午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
外科	病院長	碓 秀樹	○				○				□		
	診療部長	佐々木伸文									○		
	部長	重政 有	○										
	部長	草場 隆史			○								
	副部長	國崎 真己							○				
	医員	森 くるみ							○				
	医員	丸山圭三郎									○		
	名誉顧問 非常勤	國崎 忠臣	□				□						
整形外科	診療部長 手術部長	宮原 健次			○				○		○ (第2,4週)		
	部長	北原 博之	○					○			○ (第1,3,5週)		
脳神経外科	副院長 診療部長	阪元政三郎	○				○				○		
	副部長	竹本光一郎	○		◎ (専門)		○		◎ (専門)		○		
脳血管内科	医員	佐原 範之	○		◎ (専門)		○		◎ (専門)				
心臓血管外科	部長	谷口真一郎			○	◎			○				
	副部長	尾立 朋大			○				□				
	医員	村上 健			○				○				
小児科	診療部長	山田 克彦		循環器 第1,3,5週	○	乳幼児健診 予防接種 神経 第1週休診		○		アレルギー	アレルギー	担当医 生活習慣 (隔週)	
	部長	犬塚 幹	○	心身症				心身症		○	神経	担当医 乳幼児 健診	
泌尿器科	部長	徳永 亨介	○		□			○		□		○	
	非常勤	南 祐三	□					□ (前立腺)				□	
皮膚科	部長	山口 宣久	○		○		○		○		○		
耳鼻咽喉科	部長	大里 康雄	○		○		○	○	○		○		
	非常勤	担当医	○						○			○	
放射線科	副院長	平尾 幸一	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	診療部長	堀上 謙作	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	部長	末吉 真	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	非常勤	山崎 拓也						放射線 治療計画	放射線 治療計画				
専門 外来	インター フェロン	副院長 センター長	木下 昇		○								
		副院長 診療部長	木崎 嘉久		○ 第2,4週								
	ペー スメ ーカー	部長	中尾功二郎		○ 第2,4週								
		病院長	碓 秀樹						○				
	乳 腺	診療部長	佐々木伸文		○ 第2,4週							○	
		部長	草場 隆史					○ 第2週					
	禁煙	非常勤	菅村 洋治			○	○						
	ステントグラフト	部長	谷口真一郎			○							
	下肢静脈瘤		担当医								◎		
	心臓弁膜症 外来	副院長 診療部長	木崎 嘉久		◎ 第1週								
		部長	谷口真一郎		◎ 第3週								
	腹膜透析	医長	上条 将史							○			
睡眠時無 呼吸外来	非常勤	近藤 英明				□ 第1週							
認知症疾患 医療センター	センター長	井手 芳彦	○		○		○		○		□		
緩和医療	名誉顧問 非常勤	國崎 忠臣	○				○						
健康増進 センター	一般健診	センター長 健康管理部部長	中尾 治彦	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		部長	寺園 敏昭	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		医長	川内奈津美	○	○	○	○			○	○	○	
	健診産婦人科	特別顧問	石丸 忠之	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

Dept. of Respiratory Medicine

呼吸器内科

肺や縦隔、胸壁の疾患の患者さんを対象に、診断および内科的な治療を行っています。

■診療担当医 ※2018年7月31日現在



診療部長
副島 佳文
(そえじま よしふみ)

鹿児島大学 昭和58年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医・指導医
日本内科学会総合内科専門医
日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医
がん治療認定医
日本医師会認定産業医
ICD(インフェクション・コントロール・ドクター)



副部長
小林 奨
(こばやし つとむ)

長崎大学 平成11年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医・指導医
日本内科学会総合内科専門医
ICD(インフェクション・コントロール・ドクター)

診療内容

診療している主な疾患は以下のとおりです。

呼吸器感染症(急性気管支炎、肺炎、誤嚥性肺炎、肺化膿症、肺結核、非結核性抗酸菌症、肺真菌症など)

慢性閉塞性肺疾患(肺気腫、慢性気管支炎など)

アレルギー・免疫疾患(気管支喘息、好酸球関連肺疾患、膠原病合併肺疾患、サルコイドーシスなど)

間質性肺疾患(間質性肺炎「肺線維症」、過敏性肺臓炎、塵肺など)

肺腫瘍(原発性肺がん、肺良性腫瘍、中皮腫など)

気管支拡張症

びまん性汎細気管支炎

慢性呼吸不全(在宅酸素療法など)

慢性咳嗽

診療実績

副島と小林の二人で診療しています。副島は肺癌の化学療法が専門で、小林は呼吸器感染症が専門です。外来は副島が火曜日の午前、午後、水曜日の午前に診療を行い、小林が木曜日に診療を行っています。

入院患者さんの疾患構成は、2017年4月1日から2018年3月31日のDPCデータによると肺の悪性腫瘍180件、誤嚥性肺炎72件、肺炎・急性気管支炎・急性細気管支炎52件、間質性肺炎33件、喘息20件、抗酸菌関連疾患17件、呼吸不全12件、慢性閉塞性肺疾患8件、敗血症7件、胸壁腫瘍・胸膜腫瘍・気道出血6件でした。

呼吸器内科の主な検査は気管支鏡検査です。気管支鏡検査は水曜日の午後に行っています。末梢肺の

小病変に対してはナビゲーションソフト、ガイドシース法を用いて診断率を上げるようにしています。また肺門、縦隔リンパ節腫大に対しては超音波気管支鏡下リンパ節生検(EBUS-TBNA)を行っています。腫瘍の発生させる自家蛍光を観察できる気管支鏡も備えていますので肺門部早期肺癌の診断も可能です。

院内活動に関しては、副島は院内感染対策チームに属し、院内感染の監視や抗菌薬の適正使用についてミーティングを行っています。小林は呼吸療法チームに属し、人工呼吸器装着患者の回診を毎週火曜日に行っています。

院外活動としては副島は佐世保市医師会が行っている肺癌検診のダブルチェックに参加しています。

■主な診療実績

(入院)

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
入院延患者数	8,356名	7,567名	8,202名	7,277名	7,869名
実入院患者数	402名	429名	490名	433名	478名
退院患者数 (当科 / 全科)	414名 (7.11%)	430名 (6.75%)	481名 (7.22%)	434名 (6.5%)	483名 (7.23%)
平均在院日数	20.7日	19.1日	18.7日	17.8日	17.3日
気管支鏡症例数 (うちガイドシース法)	372件 —	127件 (62件)	146件 (79件)	123件 (82件)	123件 (73件)
(うちEBUS-TBNA)	—	(6件)	(7件)	(5件)	(7件)

(外来)

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
外来新患者数	275名	192名	174名	212名	186名
外来再来患者数	2,496名	2,671名	2,693名	2,975名	3,178名

臨床研究

長崎大学第二内科と連携し以下の臨床試験、治験を行っています。

(臨床試験)

- ・慢性閉塞性肺炎の増悪時におけるセフジトレンピボキシルの臨床効果
- ・65歳以上の高齢者肺炎(NHCAP、誤嚥性肺炎を含む)に対するシタフロキサシンの有効性

(治験)

- ・MK765A-014 国際共同試験
- ・ソリスロマイシンの臨床第Ⅲ相試験(市中肺炎)
- ・ソリスロマイシンの臨床第Ⅲ相試験(気管支炎)

認定施設

日本呼吸器学会認定施設

日本呼吸器内視鏡学会認定施設

Dept. of nephrology

腎臓内科

腎疾患の発症から末期(透析)まで幅広く治療にあたっています。

■診療担当医 ※2018年7月31日現在



医長
上条 将史
(かみじょう まさふみ)

産業医科大学 平成22年卒
日本内科学科認定内科医
日本腎臓学会専門医



医員
大塚 絵美子
(おおつか えみこ)

2018年4月就勤

長崎大学 平成24年卒



非常勤
林 和歌
(はやし わか)

長崎大学 平成8年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医 指導医
日本内科学会認定総合内科専門医
日本腎臓学会専門医
日本透析医学会専門医



医員
久原 拓哉
(くばら たくや)

2013年3月退職
長崎腎病院へ異動

長崎大学 平成23年卒
日本内科学会認定内科医

診療内容

診療内容は大きく分けて次の4項目です。

診療している主な疾患

○慢性腎臓病(CKD)、とくに生活習慣病に関連した腎臓病の診療

慢性腎臓病のなかでも糖尿病・高血圧・脂質異常症など生活習慣病を伴うのは、末期腎不全のみならず致死的な心血管病を発症しやすいことが知られています。蛋白尿がわかった時点で腎臓専門医により正確な診断がなされなければ、治療・管理の方針が立たず、気付かないうちに進行してしまうことがあります。

当院では原疾患の治療および食事・生活指導などを多職種共同で包括的に行っています。また、かかりつけ医との連携も積極的に勧めています。

多くの慢性疾患と同じく腎臓病は末期に至るまで症状がでません。健康診断の血液検査や尿検査で異常が出て、慢性腎臓病を指摘された時は、自覚症状がなくても早めに受診することが大切です。

○腎炎、ネフローゼ症候群、他の全身病に関連した腎臓病の診療

慢性糸球体腎炎(血尿と軽度～中軽度の蛋白尿を伴い、ゆっくり腎不全になる病気)ネフローゼ症候群(多量の蛋白尿とむくみを伴う病気)

急速進行性糸球体腎炎(数週～数か月で急速に腎不全に進行する病気)などは可能な限り腎生検による診断と治療方針の決定を行います。

治療はガイドラインを参照しながら行います。適応があればステロイド治療を行い、重症あるいは難治性の場合には免疫抑制剤やアフェレーシスを追加します。

○慢性腎不全の診断、治療

保存期の慢性腎不全では、食事療法、血圧コントロール、生活指導を行います。

腎機能が低下するのを防ぎ透析導入までの期間を延長すること、心血管合併症の発症を予防することを目標に治療・管理を行います。もし、腎機能が著し

く低下している場合は、透析療法を導入していくための準備を行います。できるだけ負担の少ない導入を行い、円滑に維持透析に移行できるよう努めています。導入後通院や福祉施設が必要な方は、導入前より専門スタッフにご相談ください。また、腎移植が可能な場合は他の医療機関に紹介させていただきます。

診療実績

経皮的腎生検……………7例

診療体制

- ・新患 (月)PM……………上条(大塚) (金)AM……………林(大塚)
- ・再診 (木)PM……………上条 (金)AM・PM……………林

認定施設

日本透析医学会認定施設

日本腎臓学会研修施設

Dept. of Neurology

脳神経内科

パーキンソン病や多発性硬化症など神経難病の専門的診断・治療を実施しています。

■診療担当医 ※2018年7月31日現在



副院長・診療部長
竹尾 剛
(たけお 剛)

長崎大学 昭和59年卒
医学博士
日本神経学会認定専門医・指導医
日本内科学会認定内科医
日本医師会認定産業医



非常勤
中村 龍文
(なかむら たつみ)

長崎大学 昭和53年卒
長崎国際大学 人間社会学部 社会福祉学科 教授
日本内科学会認定医
日本神経学会専門医・指導医

診療内容

頭痛、めまい、手足のしびれ・震え・脱力、歩行障害、意識障害などの診断と治療が専門です。

問診は特に重要で、症状の変化から病気の種類を推定します。発症してからピークに達するまでの時間により、病気の種類が予測できます。脳梗塞などの血管障害ならば数分以内に症状が完成することが多く、脊髄小脳変性症やパーキンソン病などの変性疾患では数年以上かけて徐々に悪化することが多いといったように、病気の種類によって、臨床経過が異なり、診断の上で、大きなヒントとなります。

次に、神経学的な診察を行い、病気の責任病巣の

場所を推定します。脳神経領域や運動系・感覚系、深部腱反射・病的反射などを系統的に診察し、どこに病変があるのかを絞り込みます。

このようにして、病気の種類と場所がわかれば、ほとんどの疾患を診断することができます。

上記で得られたベッドサイドの診断を裏付けるために、MRI・CTなどの画像診断や、神経伝導検査・筋電図・脳波などの生理検査、あるいは筋生検・神経生検といった病理検査などの、必要な検査を行って、確定診断に導き、治療に繋げて行きます。

診療実績

中村の外来診療は、新患・再来ともに、第1・3木曜日の午前中で、残りの月・火および金曜日の午前中は竹尾の再来、毎週水曜日の午前中は、竹尾の新患外来となっています。

常勤医は1名のため、オンコール体制は採用していませんが、緊急時には連絡可能な体制を採っています。

新患紹介の予約は地域医療連携センターで対応しています。

脳神経内科の特徴は、緊急を要する疾患が比較的少ないのに対し、難病や希少疾患が多いといった点が挙げられます。このため、一般内科に比べると、一人ひとりの診察に要する時間が長く、紹介していただいてから、

実際に診察に至るまでのタイム・ラグが長いといったご意見も開業医の先生方から伺いますが、上記のような特徴をご理解いただき、予約診療にご協力いただきたいと思いますと考えております。

また、難病の特性上、様々な身体機能障害を有する症例が多く、同じく白十字会に所属する耀光リハビリテーション病院と提携して、専門的な理学療法・作業療法のみならず、嚥下・言語障害や高次脳機能障害に対するリハビリテーションをシームレスに行うことを心がけています。

2011年には、日本神経学会より准教育施設に認定され、現在は研修医をはじめとした若手ドクターの教育にも、携わっています。

■主な診療実績(入院患者)

・脳血管障害	5名
・神経変性疾患	
パーキンソン病	12名
多系統委縮症	4名
その他のパーキンソニズム	2名
脊髄小脳変性症	0名
筋萎縮性側索硬化症	8名
不随意運動疾患	2名
・認知症性疾患	
レビー小体型認知症	3名
アルツハイマー型認知症	3名
その他	2名
・てんかん	8名
・自己免疫性中枢神経疾患(MS,NMO,脊髄炎など)	6名
・末梢神経疾患(GBS,CIDPなど)	10名
・神経感染症(脳炎、髄膜炎HAMなど)	3名
・内科疾患・代謝性疾患に伴う神経障害	2名
・頭痛	0名
・腫瘍	1名
・めまい	0名
・その他	
精神疾患	3名
感染症(肺炎、尿路感染症など)	15名
整形外科的疾患	3名
薬物中毒	1名
その他	2名

■臨床検査実施件数

・脳MRI・MRA	105件
・脊椎(頸椎・胸椎・腰椎)MRI	55件
・神経伝導検査	42件
・脳波	15件
・頭部CT	19件
・MIBG心筋シンチ	14件
・脳血流SPECT	3件
・脳(ダットスキャン)SPECT	23件
・頭頸部血管超音波検査	6件
・針筋電図	2件

認定施設

日本神経学会認定准教育施設

Dept.of Arthritis and Lupus Center

リウマチ・膠原病センター

関連診療科と連携して全身的な診断・治療を実施しています。

診療担当医 ※2018年7月31日現在



常務理事
臨床研修・研究統括部長
植木 幸孝
(うえき ゆきたか)

長崎大学 昭和56年卒
医学博士
長崎大学臨床教授
日本内科学会認定内科医・指導医
日本内科学会認定総合内科専門医
日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員
日本透析医学会専門医・指導医
日本アフェシス学会認定専門医
九州リウマチ学会評議員



センター長
寺田 馨
(てらだ かおる)

長崎大学 昭和60年卒
医学博士
長崎大学臨床教授
日本内科学会認定内科医・指導医
日本リウマチ学会専門医



部長
荒牧 俊幸
(あらまき としゆき)

長崎大学 平成13年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医・指導医
日本内科学会認定総合内科専門医
日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員
日本リウマチ学会登録ソングラファー



医員
辻 良香
(つじ よしか)

長崎大学 平成24年卒
日本内科学会認定内科医



医員
來留島 章太
(くるしま しょうた)

長崎大学 平成26年卒
日本内科学会認定内科医



医員
小島 加奈子
(こじま かなこ)

長崎大学 平成27年卒



顧問
江口 勝美
(えぐち かつみ)

長崎大学 昭和45年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医
日本リウマチ学会専門医・指導医・登録医



非常勤
一瀬 邦弘
(いちのせ くにひろ)

長崎大学 平成12年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医
日本内科学会認定総合内科専門医・指導医
日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員
日本腎臓学会専門医・指導医・評議員
日本医師会認定産業医



非常勤
岩本 直樹
(いわもと なおき)

長崎大学 平成14年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医
日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員
日本内科学会認定総合内科専門医・指導医

診療内容

関節リウマチ、膠原病、および膠原病類縁疾患の患者さんを主な対象に、診断および内科的治療、さらにはよりよい治療法の開発に向けた研究活動を行っています。

診療している主な疾患は右記のとおりです。

＜リウマチ疾患＞関節リウマチ

＜膠原病＞全身性エリテマトーデス、強皮症、皮膚筋炎、多発性筋炎、血管炎症候群など

＜膠原病類縁疾患＞ベーチェット病、シェーグレン症候群、リウマチ性多発筋痛症など

診療実績

関節リウマチをはじめとする膠原病は、日本リウマチ学会・アメリカリウマチ学会・ヨーロッパリウマチ学会の分類基準により行うのが標準となっていますが、鑑別すべき疾患が多く注意深く鑑別することが必要で、最初に診断ができなくても、経過観察を継続することで診断に至ることがあります。一般に経過が長く、増悪・寛解を繰り返すので、現時点だけではなく長期的な視野に立って治療を考える必要があり、患者さん自身の意見を尊重する必要があります。すなわち、予後と治療法の選択、治療の費用、副作用の情報を適切に伝え、患者さん自身の意向を勘案しながら治療法を選択する必要があります。また、疾患あるいは治療薬に関係する合併症も多くみられます。

従って、リウマチ・膠原病センターでは、以下の点を診療科の目標としています。

- ① 診断および治療の適用・開始を的確に行う。
- ② 治療効果の判定、経過観察を適切に行う。
- ③ 疾患あるいは治療薬に関係する合併症の出現に注意し、出現時は、速やかに適切に対処する。
- ④ スタッフ（看護師・理学療法士・薬剤師・管理栄養士・ソーシャルワーカー・事務職など）と協力し、日常生活上の注意、物理・作業療法、社会福祉的な支援（特定疾患・身体障害者・介護保険の申請など）を行う。

特に、関節リウマチは近年、画期的な治療である生物学的製剤の登場で治療法が大きく変わっています。しかし、基礎疾患のため使用できない場合、生物学的製

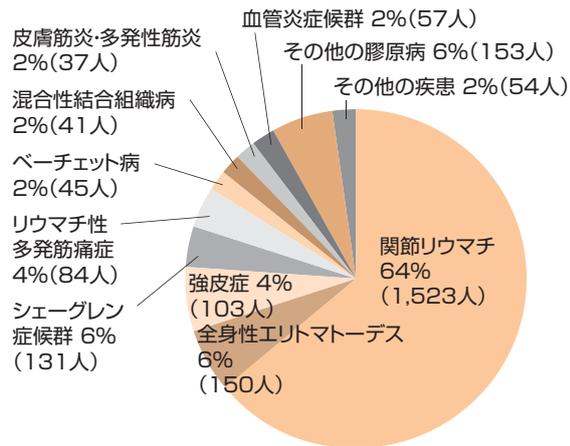
剤を使用しても十分な効果が出ない場合、生物学的製剤の副作用のため使用継続が困難である場合、生物学的製剤が高額のため経済的に使用できない場合などがあり、本当の意味で画期的とはいえない状態です。従って、生物学的製剤およびそれ以外の治療法の適応方法・開発が期待されます。今後もリウマチ膠原病疾患を中心に、佐世保市・県北の医療に貢献していきたいと思いをします。

■ 診断内訳

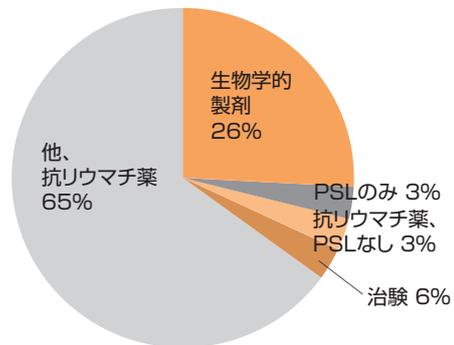
当リウマチ・膠原病センターは約2,400名のリウマチ・膠原病の患者さんを専門外来で診療しています。新患は年間約500名で、佐世保市などの長崎県北部のみならず、島原など県南部や、県外からも紹介を受けています。最近では、関節リウマチの診断・治療が急速に進み、早期リウマチの患者さんの紹介が急増しています。さらに2003年から導入された生物学的製剤により、リウマチの治療は痛みを抑える時代から、その進行を抑える時代、そして進行を止め、場合によっては関節破壊を修復するような激動の時代に突入しています。

当院では、全リウマチ患者さんの約26%に生物学的製剤を使用しています。遠方からたくさんの患者さんが当院を受診されているため、地域の先生方と県北リウマチネットワーク（RaRaサークル）を作り、リウマチの地域連携をすすめています。

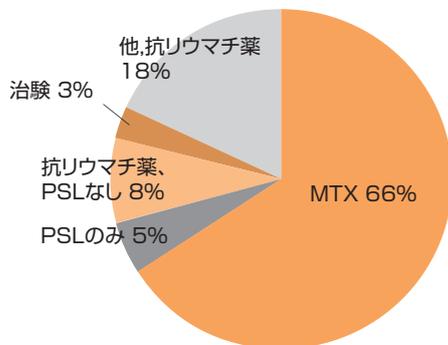
■診断内訳 2018年3月統計 (N=2,378)



■生物学的製剤使用状況 (関節リウマチ患者=1,523人)



■MTX使用状況 (関節リウマチ患者=1,523人)



認定施設

日本リウマチ学会認定教育施設

Dept. of Diabetes Center

糖尿病センター

糖尿病患者の自己管理を専門チームが支援しています。

診療担当医 ※2018年7月31日現在センター長
松本 一成
(まつもと かずなり)長崎大学 昭和62年卒
医学博士
長崎大学臨床教授
日本糖尿病学会専門医・指導医
日本内科学会認定内科医・指導医
生涯学習開発財団認定コーチ医員
明島 淳也
(あけしま じゅんや)帝京大学 平成24年卒
日本内科学会認定内科医医員
笹村 明香里
(ささむら あかり)

2018年4月就勤

長崎大学 平成27年卒

非常勤

魚谷 茂雄
(うおたに しげお)

長崎大学 昭和63年卒

非常勤

古賀 萌奈美
(こが もなみ)鹿児島大学 平成23年卒
日本内科学会認定内科医医員
徳満 純一
(とくみつ じゅんいち)2018年3月退職
長崎医療センターへ異動

長崎大学 平成25年卒

診療内容

かかりつけ医から紹介された患者さんや、健康診断で糖尿病が疑われた患者さん(メタボリックシンドロームも含む)、あるいは糖尿病そのものや合併症がコントロールできていない患者さんなどを対象にしています。糖尿病の診断、食事療法・運動療法を実行するための支援、糖尿病薬やインスリンによる治療、合併症の管理など、糖尿病専門機関でしかできないような診療を行っています。一方でかかりつけ医と地域連携システムを構築し、地域連携バス「佐世保ブルーサークル」を運用しています。ここでは通常の治療はかかりつけ医で行い、専門的な教育や検査は専門施設である当院で行うことになり、

医療資源を最大限に生かす有用な方法です。

糖尿病の理想的な治療は、できるだけ正常に近くなるように血糖値をコントロールして合併症を防止することです。そのためには、患者さん自身による「自己管理」が大切です。当院では、患者さんの自己管理を支援するために専門チームを結成し、「教育入院(2週間)」、「検査入院(1泊2日)」、「腎症教育入院(4泊5日)」、「栄養看護外来」の4つのコースを運営しています。なかでも教育入院の成績は大変良好であり、退院後多くの患者さんがHbA1c (NGSP値) 7%未満を達成されています。

診療実績

糖尿病センターでは毎月およそ1,400名の糖尿病患者さんを専門外来にて診療し、年間およそ100名の糖尿病教育入院に携わっています。新患は年間およそ300例で、長崎県内では最も充実した糖尿病学会認定教育施設です。常勤医は松本医師・明島医師・笹

村医師の3名です(2018年4月1日時点)。看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師など専門性の高いメディカルスタッフも大いに活躍しており、大変すばらしいチーム医療が実践されています。例えば、看護師は糖尿病性壊疽を未然に予防する「フットケ

ア」の実践を行っています。また、管理栄養士も毎日栄養指導を行っています。医師、看護師、管理栄養士による「透析予防指導」にも取り組んでいます。診療のみならず学術的な分野でも毎年、学会や論文など多くの糖尿病診療に関する重要な知見を継続して発表しています。その分野は多岐にわたっており、糖尿病療養指導、腎症、動脈硬化、コーチングなど幅広い発表内容になっています。

「共感的に患者さんの言葉を傾聴する」、「わかるま

で繰り返し情報提供を続ける」、「どうなりたいのか具体的に質問する」、当たり前のことと思われがちですが、実際にできている施設は少ないと思います。患者さんの自主性を支援することをエンパワメントといいますが、このことを実践するために、糖尿病の基礎知識や最新の情報を整理して患者さんに理解しやすい資料を作成しています。また、医療者と患者さんの双方向性のコミュニケーションを促進するためのコーチングにも磨きをかけています。

■糖尿病教室

- 月・笹村／管理栄養士
- 火・管理栄養士 理学療法士
- 水・松本／管理栄養士
- 木・管理栄養士 看護師
- 金・明島／管理栄養士 臨床検査技師

■主な診療実績

2017年度新患者数	274名
月平均受診者数	844名
平均HbA1c	7.4%

■クリニカルインディケータ（薬物療法患者対象）

2017年4月～2018年3月

		第1四半期 (4・5・6月)	第2四半期 (7・8・9月)	第3四半期 (10・11・12月)	第4四半期 (1・2・3月)	年 間
2017年度		30.7%	34.1%	35.9%	29.4%	36.9%
	HbA1c7.0未満の患者数	264	301	300	241	567
	薬物治療患者数	860	883	835	821	1,536

認定施設

日本糖尿病学会教育施設

Dept. of Gastroenterological Endoscopy

消化器内視鏡センター

がんの早期発見・早期治療に威力を発揮しています。

■診療担当医 ※2018年7月31日現在



副院長・センター長
木下 昇
(きのした のぼる)

長崎大学 昭和 57年卒
医学博士
日本内科学会認定医・指導医
日本消化器病学会専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本消化器内視鏡学会九州支部評議員
日本感染症学会ICD (インフェクションコントロールドクター)



診療部長
小田 英俊
(おだ ひでとし)

長崎大学 昭和62年卒
医学博士
日本内科学会認定医・指導医
日本消化器病学会専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会専門医



副部長
加茂 泰広
(かも やすひろ)

長崎大学 平成17年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医
日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本肝臓学会認定肝臓専門医



副部長
吉村 映美
(よしむら えみ)

長崎大学 平成17年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医
日本消化器病学会専門医
日本肝臓病学会専門医



医長
高木 裕子
(たかき ひろこ)

藤田保健衛生大学 平成18年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医
日本消化器病学会専門医
日本肝臓病学会専門医



医員
佐藤 航平
(さとう こうへい)

2018年4月就勤

長崎大学 平成27年卒



医員
志垣 雅誉
(しがき まさたか)

2018年3月退職
五島中央病院へ異動

長崎大学 平成26年卒

診療内容

全機種ハイビジョン対応の上部消化管内視鏡、下部消化管内視鏡を用いて、消化管(食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、S状結腸、直腸)と胆嚢、胆管、膵臓に疾患をもつ患者さんのスクリーニング検査と診断および内視鏡的治療を行っています。主な内視鏡的治療は以下のとおりです。

- ・全消化管に対する内視鏡的止血術
- ・食道静脈瘤に対する結紮術
- ・早期食道がんおよび早期胃がんに対するESD (内視鏡的粘膜下層剥離術)

- ・大腸ポリープ、早期大腸がんに対するESDおよびEMR (内視鏡的ポリープ切除術)
 - ・上部消化管狭窄や胆道悪性腫瘍に対する拡張術胃瘻造設術
 - ・異物除去
 - ・閉塞性黄疸に対する内視鏡的胆道ドレナージ術
 - ・内視鏡的総胆管結石除去術
- 肝臓病では、ウイルス性肝炎の診断及びインターフェロンフリーを中心とした治療、肝細胞がんに対する超音波下、腹腔鏡下ラジオ波焼灼療法及びエタノール局注療法を行っています。

診療実績

食道、胃、十二指腸に対する上部消化管検査は、年間5,460件(2017年度実績)実施し、うち479件に上記のような内視鏡的治療を行っています。

小腸、大腸、S状結腸、直腸に対する下部消化管検査は、年間1,535件(2017年度実績)実施し、うち約487件に上記のような内視鏡的治療を行っています。

当院は佐世保市指定二次救急輪番病院であり、年間を通して、昼夜を問わず消化管出血などの患者さん

が搬送されてきます。当科では、チーム内でオンコール体制をとり、緊急の症例にも対応しています。

近年の内視鏡による診断・治療手技の飛躍的な進歩により、胃がんや大腸がんは、早期がんの段階で発見できれば、治療することによりほぼ100%完治できるようになっています。異常を自覚したり、健康診断で精密検査を進められた方は、躊躇されることなくできるだけ早いうちに当科を受診されることをおすすめします。

■主な診療実績

上部消化管内視鏡検査	5,460件
下部消化管内視鏡検査	1,535件
上部内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	60件
下部内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	56件
上部内視鏡的粘膜切除術(EMR)	4件
下部内視鏡的粘膜切除術(EMR)	396件
内視鏡的止血術	105件
内視鏡的胃瘻造設術(PEG)	11件
内視鏡的拡張術	56件

内視鏡的静脈瘤結紮術(EVL)	17件
内視鏡的胆道治療(ERBD/EST)	230件
超音波内視鏡検査(EUS)	198件
内視鏡的異物除去術	18件
肝生検	25件
ラジオ波焼灼療法(RFA)肝生検	16件
インターフェロンフリー治療導入	22件
B型肝炎核酸アナログ導入	4件

認定施設

- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本消化器病学会認定施設

Dept. of artificial dialysis Center

人工透析センター

血液浄化療法を導入し、免疫性疾患の治療にも対応しています。

■診療担当医 ※2018年7月31日現在



常務理事
臨床研修・研究統括部長
植木 幸孝
(うえき ゆきたか)

長崎大学 昭和56年卒
医学博士
長崎大学臨床教授
日本内科学会認定内科医・指導医
日本内科学会認定総合内科専門医
日本リウマチ学会認定医・専門医・指導医・評議員
日本透析医学会専門医・指導医
日本アフェレンス学会認定専門医
九州リウマチ学会評議員



医長
上条 将史
(かみじょう まさふみ)

産業医科大学 平成22年卒
日本内科学科認定内科医
日本腎臓学会専門医



医員
大塚 絵美子
(おおつか えみこ)

2018年4月就勤

長崎大学 平成24年卒



非常勤
林 和歌
(はやし わか)

長崎大学 平成8年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医・専門医
日本内科学会認定総合内科専門医
日本腎臓学会腎臓専門医
日本透析医学会専門医



医員
久原 拓哉
(くぼら たくや)

2018年3月退職
長崎腎病院へ異動

長崎大学 平成23年卒
日本内科学会認定内科医

診療内容

腎臓疾患や自己免疫疾患などの患者さんを主な対象に、専門的な診断および血液透析や血漿交換など、血液浄化装置を用いて各種専門治療を行っています。診療している主な疾患は次のとおりです。

〈腎臓疾患〉

ネフローゼ症候群、急性糸球体腎炎、慢性糸球体腎炎、腎性高血圧、糖尿病性腎症、
膠原病に伴う腎障害、急性腎障害、慢性腎臓病など

〈自己免疫疾患〉

関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、血管炎、潰瘍性大腸炎など

診療実績

常時85人以上の維持透析を行い、また、透析導入やあらゆる急性血液浄化療法にも対応しています。

2016年度に全国で維持透析導入された患者数は39,300人を超え、また維持透析患者数も329,000人を

超えました。また、導入時平均年齢は男性が68.5歳、女性は71.1歳、全体の平均年齢は69.2歳、当院においても男性60.8歳、女性70.0歳、全体では62.5歳と導入患者さんの高齢化が進んでいます。また、20年以上透析

患者数は全国で26,313人と、全透析患者の中の8.0%を占め、長期透析患者さんの増加傾向が明らかとなっています。

透析患者さんの高齢化、維持透析の長期化に伴い、アミロイドーシスや透析性骨症といった透析患者さん特有の合併症に加え、脳血管障害、心血管障害、悪性腫瘍などの多岐にわたる合併症を有する患者さんが増加し、それらの診断、治療も重要な位置を占めるようになりまし。人工透析センターは、さまざまな科を有する

総合病院で行う透析の利点を生かし、専門の他科と連携して、急性期治療が必要な合併症を持つ透析患者さんを受け入れています。脳血管障害や心血管障害、術後などでCHDFを施行した回数は2016年度124回、2017年度147回、膠原病や肝疾患、消化器疾患を対象とした血漿交換やLCAP等の特殊血液浄化療法の施行もそれぞれ53回、96回と急性期の血液浄化療法も積極的に行っています。

■主な診療実績

- ・維持透析患者数 86人
2018年3月31日現在
- ・維持透析導入患者
(急性腎不全、術後一時的導入を除く)
2016年度 16人
2017年度 21人

- ・特殊血液浄化療法施行回数
(2016年4月1日～2018年3月31日)延べ回数

	2016年度	2017年度
LCAP	8	10
GCAP	27	10
血漿交換 他	10	61
エンドトキシン吸着	8	15
CHDF	124	147

認定施設

日本透析医学会認定施設

Dept. of Cardiology

循環器内科

急性心筋梗塞をはじめ循環器疾患にオンコール体制で365日・24時間対応しています。

■診療担当医 ※2018年7月31日現在



副院長・診療部長
入退院支援センター長
木崎 嘉久
(きざき よしひさ)

長崎大学 昭和59年卒
日本内科学会認定内科医・認定総合内科医・指導医
日本循環器学会認定専門医
日本心血管インターベンション治療学会専門医・指導医
同九州地方会運営委員
日本高血圧学会専門医・指導医
日本医師会認定産業医
長崎県急性心筋梗塞検討委員会 委員



部長・救急部部长
中尾 功二郎
(なかお こうじろう)

長崎大学 平成2年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医
日本循環器学会認定専門医
日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医



医長
落合 朋子
(おちあい ともこ)

長崎大学 平成20年卒
日本内科学会認定内科医
日本心血管インターベンション治療学会認定医



医員
吉村 聡志
(よしむら さとし)

長崎大学 平成24年卒
日本内科学会認定内科医
日本救急学会ICLSインストラクター
JATEC-FCCSプロバイダー
日本化学療法学会抗菌化学療法認定医



非常勤
矢野 捷介
(やの かつすけ)

長崎大学 昭和41年卒
医学博士
長崎国際大学 健康管理学部客員教授
長崎大学医学部名誉教授
日本老年医学会認定老年病専門医・指導医
日本循環器学会認定専門医・日本内科学会認定内科医
介護老人保健施設長寿苑顧問

診療内容

狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患、高血圧症、不整脈など、心臓疾患や循環器疾患を対象に、心臓超音波検査、心臓カテーテル検査（緊急対応可）や64列MDCT（マルチスライスCT）を使用して、冠動脈、大血管などの評価、心臓核医学検査など専門的な診断および治療を行っています。急性心筋梗塞には常時オンコール体制で365日・24時間対応しています。診療している主な疾患は次のとおりです。

- 〈虚血性心疾患〉急性心筋梗塞、狭心症 など
- 〈高血圧症〉本態性高血圧症、二次性高血圧症 など
- 〈不整脈〉頻脈性不整脈、徐脈性不整脈、心房細動 など
- 〈心臓弁膜疾患〉僧帽弁膜症、大動脈弁膜症や先天性心疾患 など
- 〈心臓筋疾患〉心膜炎、筋炎、筋症 など
- 〈血管疾患〉大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症 など

診療実績

外来診療は平日午前中に新患、再来各1名で行い、専門外来としてペースメーカー外来を第2および第4月曜午後に実施しています。平日午後には血管インターベンション加療(PCI)やカテーテルアブレーション加療(ABL)などの各種検査と治療を中心に診療しています。新患紹介や冠動脈CTA検査などの予約は連携せ

ず。新患紹介や冠動脈CTA検査などの予約は連携せ

ンターで対応しており、また、メディカルネット99からの直接予約も可能となっています。

救急受入れは、平日日勤帯は常時対応しています。時間外は内科系当直の対応となりますが、急性心筋梗塞や重症心不全症例など緊急治療を要する場合は、循環器内科当番医(オンコール)で加療しています。緊急心臓カテーテル検査も24時間常時実施可能です。

心臓リハビリテーション指導士による運動療法やPCIや末梢血管形成術(PTA・PTR)、不整脈加療としてペースメーカー加療、ABL、心臓再同期療法(CRT)と難治性・致死性不整脈疾患へ植込み型除細動器(ICD)、両者を併せた両室ペーシング機能付除細動(CRT-D)治療、他に大動脈内バルーンポンプ(IABP)や経皮経管的心肺補助システム(PCPS)による補助循環システムを利用した加療を実施しています。多科連携での血管内カテーテル治療となる大動脈STENT.graft留置(EVAR・TEVAR)、頸動脈狭窄へのSTENT加療(CAS)なども施設基準制定を受けて加療を行っています。

地域医療連携の一環としてAMI・PCI地域連携パスを2006年5月より稼働、2018年3月までに地域医療機関95施設(病院14、医院・診療所81施設)との間で、延べ403症例で運用しています。

■主な診療実績 2017年(1/1-12/31)

心エコー図検査	3,041例
心臓カテーテル検査	402例
大動脈CT	366例
心臓CT(冠動脈CTA)	237例
心血管インターベンション加療	104例
心筋シンチ	65例
体内式ペースメーカー植込み(CRT・ICD含む)	38例
末梢血管インターベンション加療	29例
年間入院数	506名

(うち急性心筋梗塞26名)

■循環器関連機器

心エコー図装置	4台
Toshiba社製 Aplio	
GE社製 vivid i	GE社製 vivid E9
64列 MDCT	1台
PHILIPS社製 Brilliance64	
血管造影装置	2台
PHILIPS社製 Allura Clarity FD 20/20	
Toshiba社製 Infinix Celeve-i	
冠動脈血管内超音波装置	1台
VOLCANO社製	
VOLCANO S5 Imaging system	
負荷 ECG装置	
エルゴメータ1台	トレッドミル1台 CPX
ホルター解析装置	1台
フクダ電子 SCM-8000	
RI装置	1台
MRI	1.5T 1台
	3.0T 1台(心血管 MRA対応可)

認定施設

- ・日本循環器学会認定教育施設
- ・日本心血管インターベンション治療学会認定教育施設
- ・日本高血圧学会認定研修施設
- ・両心室再同期療法・植込み型除細動器治療(CRT-D)実施認定施設
- ・胸部-腹部大動脈STENT留置(EVAR・TEVAR)
- ・心大血管疾患リハビリテーション認定(I)

施設対応

- ・Medtronic製MRI対応型ペースメーカー植込み患者MRI検査施設

Dept. of Surgery

外科

専門医による高度の医療を提供する体制を整備。患者さんのQOLを重視した縮小手術も積極的に実施しています。

■診療担当医 ※2018年7月31日現在



理事
病院長
碓 秀樹
(いかり ひでき)

長崎大学 昭和58年卒
医学博士
日本外科学会外科専門医
日本消化器外科学会消化器外科認定医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本医療マネジメント学会評議員
緩和ケア研修会修了



臨床検査部長
梶原 啓司
(かじはら けいじ)

徳島大学 昭和55年卒
医学博士
日本外科学会外科専門医-指導医
日本消化器外科学会消化器外科専門医-指導医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
日本消化管学会胃腸科認定医
緩和ケア研修会修了



診療部長
佐々木 伸文
(ささき のぶひこ)

宮崎大学 昭和62年卒
医学博士
日本外科学会外科専門医
日本胸部外科学会認定医
日本消化器外科学会消化器外科認定医
日本乳癌学会認定医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
緩和ケア研修会修了



部長
重政 有
(しげまさ ゆう)
2018年4月就勤

防衛医科大学 平成2年卒
医学博士
日本外科学会外科認定医-専門医-指導医
日本消化器外科学会消化器外科認定医-専門医-指導医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
日本肝臓胆膵外科学会高度技術名誉指導医-評議員
大腸肛門病学会九州地方会評議員
緩和ケア研修会修了



部長
草場 隆史
(くさば たかふみ)

長崎大学 平成9年卒
医学博士
日本外科学会外科認定医-専門医
日本消化器外科学会消化器外科専門医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
緩和ケア研修会修了



副部長
國崎 真己
(くにざき まさき)
2018年4月就勤

三重大学 平成10年卒
日本食道学会食道科認定医
日本内視鏡外科学会技術認定医(胃)
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本外科学会外科専門医-指導医
日本消化管学会胃腸科認定医-専門医-指導医
日本消化器外科学会消化器外科専門医-指導医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
緩和ケア研修会修了



医員
森 くるみ
(もり くるみ)

長崎大学 平成24年卒
日本外科学会外科専門医
緩和ケア研修会修了



医員
丸山 圭三郎
(まるやま けいざぶろう)

長崎大学 平成25年卒
緩和ケア研修会修了



医員
久永 真
(ひさなが まこと)
2018年4月就勤

長崎大学 平成20年卒
日本外科学会外科専門医
緩和ケア研修会修了



医員
鎌尾 智幸
(てつお ともゆき)
2018年4月就勤

2018年4月就勤
長崎大学 平成22年卒
日本外科学会外科専門医
緩和ケア研修会修了



名誉顧問
國崎 忠臣
(くにざき ただちか)

長崎大学 昭和41年卒
医学博士
日本消化器内視鏡学会専門医-指導医
日本緩和医療学会暫定指導医
緩和ケア研修会修了



非常勤
菅村 洋治
(すがむら ようじ)

新潟大学 昭和42年卒
日本外科学会外科専門医
日本消化器外科学会消化器外科認定医



医員

原 亮介

(はら りょうすけ)

2018年3月退職
長崎原爆病院へ異動長崎大学 平成23年卒
日本外科学会専門医

診療内容

現在8名のスタッフで、あらゆる分野の専門医を取得し、認定施設や若い臨床医の研修・育成の場としての基準を満たしています。

診療面では、専門医による高度の医療を提供するため、肝胆膵外科、消化器・一般外科、乳腺・内分泌外科、呼吸器外科の4つのユニットに分け、それぞれ中心となる担当医を決めて、高度で安全な医療を目指しています。

治療対象の多くはがんなどの悪性疾患で、早期の症例に対しては、QOLを重視した機能温存・縮小手術を、進行がんには手術に化学療法、温熱療法、放射線療法などを組み合わせた集学的治療を行っています。進行がんに対してはdown stagingによる予後の改善を目的とした術前化学療法(NAC)を行う症例が増加しています。

近年、低侵襲手術に重点が置かれるようになり、内視鏡手術や鏡視下手術が増加の傾向にあります。当科における鏡視下手術は1991年という早期に導入し、現在は胆石症などの良性疾患に対しては積極的に腹腔鏡下手術を行い、大腸がんに対しては症例を選択しながら、腹腔鏡下ないし腹腔鏡補助下手術を行っていま

す。胸腔鏡下手術は、自然気胸、肺がんや縦隔腫瘍などに対して年間約45例を行っています。自然気胸の患者さんに対しては、術後再発率0%を目標に治療を行っており、それに近い実績をあげています。

年々増加する乳がんに対しては、整容性を重視した乳房温存手術を目指しています。また全摘が必要な症例においては、症例を選んで一次的乳房再建術を行っています。

専門外来として、乳腺外来、ストーマ外来、禁煙外来を午後の時間帯に開設して、患者さんのニーズにこたえています。

研究面では、赤外観察カメラシステム(Photodynamic Eye, PDE)を導入し、乳がん・胃がん・大腸がんを中心にICGの蛍光特性を利用したnavigation surgeryを開始しています。また全国学会をはじめ、各種学会において、研究報告や症例報告を別記のように発表しました。

毎週月曜日に病理、放射線科と合同で抄読会を行い、毎週月・木曜日に術前検討会を、毎週木曜日に消化器内科医を交えて術後検討会を行っています。また毎月1回手術標本の病理検討会を病理医指導の下で行っています。

診療実績

当院は救急告示病院で、佐世保市の二次輪番救急指定病院でもあり、緊急患者に対しては24時間対応

で行っており、2017年度は2,458台の救急車を收容し、98例の外科緊急手術を施行しました。

■主な診療実績

－手術症例数－

手術総数 588 (全身麻酔458、腰椎麻酔30、局所麻酔103)					
(1)乳腺腫瘍 ・乳がん ・その他(葉状腫瘍等)	100例 90例 10例	(6)胃十二指腸潰瘍(穿孔)	3例	(11)胆石症 ・腹腔鏡下	62例 53例
(2)甲状腺腫瘍 ・甲状腺癌 ・その他	3例 2例 1例	(7)小腸疾患 ・イレウス ・腫瘍	20例 1例	(12)胆嚢腫瘍 (内 腹腔鏡下手術 4例)	4例
(3)呼吸器 (内 胸腔鏡下手術 45例)	48例	(8)大腸腫瘍 ・結腸癌 ・直腸癌	68例 50例 18例	(14)肝腫瘍(肝切除) ・原発性 ・転移性	5例 3例 2例
①肺がん	22例	(9)大腸良性疾患(穿孔)	5例	(15)膵腫瘍	4例
③縦隔腫瘍	3例	(10)ヘルニア ・鼠径 ・大腿	73例 61例 2例	(16)胆管腫瘍	5例
④気胸	12例	・閉鎖孔	1例	(17)肛門疾患	4例
⑤その他	11例	・腹壁 ・臍	6例 3例		
(4)食道がん	2例	(内 腹腔鏡下手術 37例)			
(5)胃腫瘍 ・胃がん	31例 28例				
(内)緊急手術95(全身麻酔79、腰椎麻酔2、局所麻酔14)					
・急性虫垂炎	16例	・気胸	4例	・下部消化管穿孔	5例
・腸閉塞	13例	・大腸がん	8例	・胆石、胆のう炎	8例
・ヘルニア嵌頓	8例	・上部消化管穿孔	3例	・その他	30例

認定施設

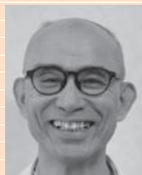
- ・日本外科学会専門医制度修練施設
- ・日本呼吸器外科学会専門医制度関連施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本胸部外科学会専門医制度関連施設
- ・日本ハイパーサーミア学会認定施設
- ・日本消化器外科学会専門医修練施設
- ・日本救急医学会救急科専門医指定施設
- ・日本乳癌学会関連施設
- ・日本がん治療認定研修施設
- ・日本緩和医療学会認定研修施設

Dept.of Orthopaedic surgery

整形外科

運動器のけがや病気を治療しています。特に関節鏡を用いた手術を沢山行っています。

■診療担当医 ※2018年7月31日現在



診療部長・手術部部長
宮原 健次
(みやはら けんじ)

長崎大学 昭和58年卒
日本整形外科学会 整形外科専門医
日本整形外科学会 リウマチ医
日本整形外科学会 脊椎脊髄病医
身体障害者法 長崎県指定医



部長
北原 博之
(きたはら ひろゆき)

福岡大学 平成2年卒
日本整形外科学会 整形外科専門医
日本整形外科学会 スポーツ専門医
日本体育協会 スポーツ専門医
身体障害者法 長崎県指定医

診療内容

2014年6月より10年ぶりに整形外科が復活して、4年が経ちました。

整形外科医は常勤2名体制で外来業務や入院手術業務を行っています。救急も可能な範囲で対応しています。手術症例も年間ほぼ400例前後で推移しています。

佐世保市南部を中心に西彼杵半島や佐賀県西部からも患者さんが増えてきました。

当院の特徴としては骨折などの外傷以外にも、関節

外科とくに関節鏡視下の手術が多く、肩関節においては佐世保市有数の病院になってきました。

また膝の関節鏡視下の手術や骨切り術、膝や股関節の人工関節置換術、靭帯の再建術や腱の手術なども行っています。さらに当院に多い糖尿病やリウマチの患者さんの骨折などの外傷や関節や腱の手術などに対応しています。

手術内容の内訳につきましては、次項をご覧ください。

診療実績

2014年6月～2015年3月(10か月)の全手術症例:312例

2015年4月～2016年3月(1年)の全手術症例:423例

2016年4月～2017年3月(1年)の全手術症例:401例

2017年4月～2018年3月(1年)の全手術症例:399例

<今回の1年の内訳>

1)肩関節：75例

- ①関節鏡視下手術 67例
- 腱板修復術 42例
- (パッチ形成2例を含む)
- 関節唇修復 11例
- 授動術 10例
- 滑膜切除術 4例

- ②人工骨頭挿入術 2例
- ③上腕骨近位骨折骨接合 6例

2)膝関節：37例

- ①関節鏡視下手術 28例
- 半月板切除 15例
- 半月板縫合 4例
- 滑膜切除 2例
- ACL再建術 3例

遊離体摘出 4例	6)切断術：9例
②骨切り術 9例 (内骨軟骨移植追加2例)	大腿切断 1例
3)人工関節：27例	下腿切断 5例
①膝関節全置換 19例 (内リウマチ2例)	足趾切断 3例
②股関節全置換8例 (内リウマチ1例)	7)腱や靭帯など：22例
4)大腿骨頸部骨折：79例	アキレス腱断裂 5例
転子部骨折:骨接合 36例	足関節靭帯断裂 1例
内側骨折:骨接合 7例	尺骨神経移行 0例
人工骨頭挿入 36例	手根管解放 4例
5)その他の骨折：106例	ばね指 12例
	8)リウマチ足手術(変形矯正)：2例
	9)その他(感染や抜釘など)：42例
	合計399手術

認定施設

日本整形外科認定施設

今後の評価と来年度への展開

佐世保市南部を中心に西彼杵半島や佐賀県西部地域の救急医療や運動器の疾患等に対して常勤医師2名でできるだけの対応をしています。年間おおよそ400例の手術をしています。

とくに肩関節の手術に対しては専門医が少ない中、北原医師を中心に佐世保市でも中心的存在になりつ

つあります。今後常勤医師または非常勤医師を増やすことができれば、さらに内容を拡大できると考えています。それまでは常勤2名でフルに頑張っ地域医療に貢献していきたいと考えていますので、どうぞよろしく願いいたします。

Dept. of neurosurgery

脳神経外科・脳血管内科

脳血管障害や頭部外傷に最先端の診断・治療を実施しています。



副院長・診療部長
阪元 政三郎
(さかもと せいざぶろう)

福岡大学 昭和60年卒
医学博士
日本脳神経外科学会専門医
日本脳卒中学会専門医
長崎県北脳卒中研究会世話人
長崎県北神経懇話会世話人
日本脳神経外科学会代議員
佐世保脳外科医会代表世話人
福岡脳卒中連携セミナー世話人
福岡脳卒中救命セミナー世話人
福岡大学臨床教授



副部長
竹本 光一郎
(たけもと こういちろう)

福岡大学 平成15年卒
医学博士
日本脳神経外科学会専門医
日本脳卒中学会専門医
日本脳神経血管内治療指導医



医長
天本 宇昭
(あまもと たかあき)

2018年4月就勤
長崎大学 平成22年卒
日本脳神経外科学会専門医



医員
古賀 嵩久
(こが たかひさ)

福岡大学 平成24年卒



医員
吉永 貴哉
(よしなが たかや)

2018年4月就勤
川崎医科大学 平成26年卒



医員
佐原 範之
(さはら のりゆき)

長崎大学 平成23年卒
日本内科学会認定内科医
日本脳神経血管内科治療学会専門医



医員
堀尾 欣伸
(ほりお よしのぶ)
2018年3月退職
福岡大学病院救命救急センターへ異動

熊本大学 平成24年卒

診療内容

脳や脊髄および末梢の神経にいたるまで、あらゆる神経系の疾患をもつ患者さんを対象に、専門性の高い診断および手術治療ならびに血管内治療を24時間体制で行っています。診療している主な疾患は以下のとおりです。

〈脳血管障害〉くも膜下出血(脳動脈瘤破裂)、未破裂脳動脈瘤、脳出血、脳動静脈奇形、脳梗塞、モヤモヤ病、頸動脈狭窄症など

〈脳腫瘍〉神経膠腫、髄膜腫、聴神経腫瘍、転移性脳腫瘍、下垂体腫瘍など

〈頭頸部外科疾患〉頭部外傷、顔面外傷など

〈脊椎・脊髄疾患〉変形性脊椎症、椎間板ヘルニア、脊髄腫瘍、脊髄動脈奇形など

〈機能的疾患〉顔面痙攣、三叉神経痛など

診療実績

2016年7月より脳血管内科医の加入により、他病院と比較して、内科と外科の共同した脳卒中治療が提供できるようになり、休みなしのリハビリテーションと協力して、より充実してきました。佐世保市は脳輪番体制が整い、平日のみならず、休日・夜間の急患対応がスムーズに行われており、当院もその一翼を担い、脳虚血疾患も増え、急性期血栓溶解療法(t-PA)および血栓回収療法が増加しています。

手術に関しては、脳動脈瘤治療(クリッピング・コイル塞栓術)と血行再建術(血栓回収療法・ステント留置術)を含めた脳血管内治療が増加し、2016年を上回

る手術数となりました。脳腫瘍は横ばいで、頭部外傷・脊椎疾患に関しては年々減少傾向です。佐世保市は年々人口数の減少があり、脳腫瘍の増加は望めず、外傷は高エネルギー外傷が減少している影響や交通運輸規則や指導の賜物かと思われます。

高齢化社会で脳血管障害は増加することが予想されますが、脳梗塞に関しては予防医療が重要で、2016年度に血小板凝集能測定機を購入し、脳虚血疾患や脳血管内治療後の適切な薬物管理が可能となり、再発や出血性合併症を最小限度にできるように行っています。

■主な診療実績

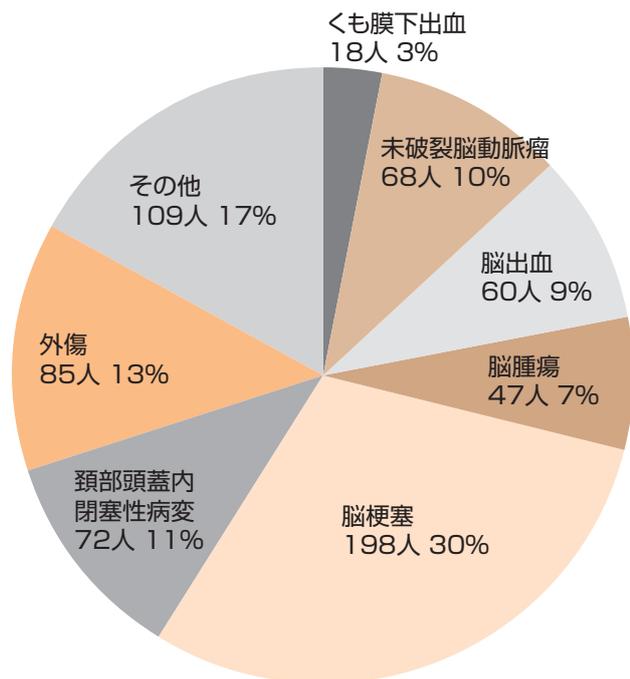
・外来患者数:5,659名 ・入院患者数:691名(2016年 555名)

・手術症例数:232件、脳虚血患者 262名 t-PA 22例

(件)

手術名	2015年(1月~12月)	2016年(1月~12月)	2017年(1月~12月)
開頭クリッピング	15(SAH 7)	16(SAH 8)	26(SAH 8)
動脈瘤コイルリング	12(SAH 3)	7(SAH 3)	21(SAH 7)
脳出血開頭血腫除去	20	19	18
脳動静脈奇形摘出	0	0	1
頸動脈内膜剥離術	9	9	6
頸動脈ステント留置術	14	12	17
STA-MCAバイパス	1	1	0
脳腫瘍摘出(下垂体)	20(6)	23(3)	19(4)
急性硬膜外血腫	0	1	0
急性硬膜下血腫	8	9	11
慢性硬膜下血腫	21	37	23
V-Pシャント	12	5	8
頭蓋外ステント	5	3	1
頭蓋形成術	3	1	1
髄液ドレナージ	15	11	11
外減圧	3	3	4
頸椎前方固定	1	0	1
腫瘍除去	5	4	4
神経血管減圧術	0	0	0
緊急血行再建術	15	15	24
上記以外血管内治療	13	6	17
その他	24	14	19
計	216	196	232

■入院患者疾病別(2017年4月～2018年3月)



認定施設

- 日本脳神経外科学会 専門医訓練施設
- 日本脳卒中学会 認定研修教育病院
- 日本脳神経血管内治療学会 研修施設

今後の評価と来年度への展開

脳血管内科医の加入により脳血管内科と脳神経外科の共同した脳卒中治療が行われるようになり、外科手術は当然のことながら、特に脳梗塞に関しては、詳細・正確な超音波検査、原因検索を行い、患者の状態を把握してよりの確な抗血栓・抗凝固療法が行われ、良好な医療が提供できているかと思えます。今春からは脳血管内治療指導医に加え、専門医が1人増え、いつでも緊急に血管内治療が実施できるようになりました。年々メスを使用した外科手術より、侵襲の少ない血管内治療が増加していますが、良好な結果が得られ入院期間も

短縮し、患者の満足度も高くなっています。今後も、この傾向は続くであろうと思われ、さらにこの部門の充実を図る予定です。また今春より脳神経外科医が1人増員となり、6人体制でチーム一丸となり救急医療にも対応し、365日休まないリハビリテーションを含めた多職種とも連携した医療を心掛け、脳血管内科医と脳卒中リハビリテーション認定看護師と共に、さらなる脳卒中診療の充実を図るため、院内・院外での教育、啓蒙活動を行ってこうと考えています。

Dept. of Cardiovascular Surgery

心臓血管外科

低侵襲心臓手術(MICS: Minimally Invasive Cardiac Surgery)も可能となりました。

■診療担当医 ※2018年7月31日現在



部長
谷口 真一郎
(たにくち しんいちろう)

長崎大学 平成11年卒
医学博士
日本外科学会専門医
日本胸外科学会正会員
日本胸外科学会九州地方会評議員
三学会構成心臓血管外科修練指導者
三学会構成心臓血管外科専門医
心臓血管外科国際会員
日本脈管学会認定脈管専門医
下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術実施医
ICD(インフェクション・コントロールドクター)



副部長
尾立 朋大
(おだて ともひろ)

2018年4月就勤

長崎大学 平成12年卒
医学博士
日本外科学会外科専門医
三学会構成心臓血管外科専門医
日本脈管学会認定脈管専門医
日本循環器学会循環器専門医
日本心臓リハビリテーション学会指導士
下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術実施医



医員
村上 健
(むらかみ たけし)

弘前大学 平成24年卒
下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術実施医



非常勤
中路 俊
(なかじ しゅん)

2018年3月退職
長崎大学病院へ異動
2018年4月より非常勤

長崎大学 平成14年卒
日本外科学会専門医
三学会構成心臓血管外科専門医
日本脈管学会認定脈管専門医
胸部ステントグラフト実施医
腹部ステントグラフト指導医
心臓リハビリテーション指導士
下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術指導医

診療内容

24時間緊急に対応できる体制を整え、心臓・大血管疾患、末梢血管疾患の外科治療を中心に行っています。特に最先端治療である低侵襲手術として、①心臓弁膜症に対する右開胸小切開手術、②胸部・腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術、③下肢静脈瘤に対するレーザー焼灼術を積極的に行っており、体への負担が少ないやさしい専門医療を心がけています。長崎大学病院や地域医療機関と綿密に連絡を取り合い、長崎県北の循環器医療に貢献できるよう努めています。

①心臓疾患

心臓の病気には数多くの種類がありますが、大きくは生まれつき心臓に異常がある先天性疾患と、生まれた後に病気が生じる後天性疾患に分かれます。例えば先天性疾患には、心臓の壁に穴が開いている心房中隔欠損症や、心室中隔欠損症などがあります。後天性心臓疾患には心臓を栄養する血管が狭くなったりつまったりする狭心症や心筋梗塞、心臓を仕切る弁膜(大動脈弁・僧帽弁・三尖弁・肺動脈弁)に異常が生じる弁膜症などがあり、それらの病気に対し、冠動脈バイパス術や弁置換術・弁形成術などの外科治療を行っています。

特に最近では、高齢者の方々の手術が増加しており、手術侵襲を少なくするために人工心肺を使用しない心拍動下冠動脈バイパス手術を積極的に行っています。

②大血管疾患

大血管の病気は血管壁に亀裂が入る大動脈解離と、血管が次第に拡張してくる大動脈瘤などに大きく分かれます。特に、大動脈解離は診療に急を要する場合があります。そのような急を要する病気に対しても、私たちは24時間緊急に対応できる体制を整え診療を行っています。大動脈瘤に関しては動脈瘤を切除して人工血管に取り換える手術が一般的ですが、私たちの施設ではステントグラフト内挿術を行うことも可能であり、多くの治療法の提案ができ、その中から最適と思われる治療を受けることが可能です。

〈ステントグラフト治療とは?〉

ステントグラフト治療とはカテーテルで血管内に人工血管を留置する方法で、利点として一般の手術より体への負担は軽減され、入院期間も短縮できます。しかし、動脈瘤の状態で適応が制限されることや治療効果などの問題点があります。個々の症例ごとによく検討する必要があります。今後の治療法ですが、今後さらに増加していくと考えられます。

③末梢血管疾患

末梢血管疾患は動脈疾患と静脈疾患に分かれます。足の動脈が狭くなったりつまったりする閉塞性動脈硬化症については、下肢バイパス手術や血管の中から風船で治療する血管内治療を行っています。静脈疾患の外科治療では静脈瘤に対して血管エコーを用いて診療し、手術の際にも血管エコーで静脈瘤の様子をみながら、適切で最小限の皮膚切開を行う方法で、ストリッピング手術や逆流している静脈の内側からレーザーで静脈の壁を焼く「血管内レーザー焼灼術」を行っています。

診療実績

手術名	心臓血管外科の実績(手術件数)			
	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
開心術(OPCAB)	57(12)	33(8)	47(3)	70(2)
胸部大血管(ステントグラフト)	10(9)	12(6)	14(11)	16(7)
腹部大血管(ステントグラフト)	17(11)	26(13)	16(10)	25(19)
末梢動脈	20	15	19	34
末梢静脈(下肢静脈瘤レーザー焼灼術)	169(145)	157(138)	200(188)	206(181)
内シャント造設術	38	48	27	31

認定施設

- ・心臓血管外科学会認定修練施設
- ・日本脈管学会認定研修関連施設
- ・胸部・腹部ステントグラフト実施施設
- ・下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術実施施設

Dept. of Dermatology

皮膚科

皮膚科領域全般にわたり診療を行っています。

■診療担当医 ※2018年7月31日現在


部長

山口 宣久

(やまぐち のりひさ)

福岡大学 平成8年卒

診療内容

当科は平日の午前に一般外来診療、局所処置、光線治療などを行い、午後は時間を要する検査・処置および日帰り手術、他科および自科の入院患者さんの診察・処置などを行っています。第1・3・5の火曜にはコメディカルと併せて褥瘡回診を行っています。

治療は原則として各疾患に対するいくつかのオーソドックスな治療法の中から、症状や患者さんの背景を考慮して最も適切な治療法を選択しています。皮膚疾患の多くは何度も繰り返し、完全に治癒するまでに長い時間がかかるものが多いことから、当科では患者さんに根気強く治療を続けていただけるよう、皮膚症状に対する薬物療法にとどまらず、生活習慣や生活環境の見直しも含めたアドバイスをさせていながら診療をすすめています。皮膚疾患の性格上、外来での通院が主体となりますが、外来では症状のコントロールが不十分な症状の場合は入院治療を要します。症状は内科系の全身疾患の一症状として現れることが少なくないため、その可能性が疑われる場合には他の診療科との連携を重視して診療をすすめていきます。

主な疾患は以下の通りです。

＜湿疹・皮膚炎＞アトピー性皮膚炎、脂漏性皮膚炎、自家感作性皮膚炎、皮脂欠乏性湿疹など
 ＜蕁麻疹・痒疹・皮膚瘙癢症＞蕁麻疹群、痒疹、皮膚瘙癢症など
 ＜紅斑・紅皮症＞手掌紅斑、多形紅斑、紅皮症、Stevens-Johnson 症候群など
 ＜薬疹＞薬疹、薬剤過敏性症候群、手足症候群など
 ＜血管炎・紫斑・その他の脈管疾患＞蕁麻疹、皮膚小血管性血管炎など

＜膠原病および類縁疾患＞全身性エリテマトーデスおよび類縁疾患、強皮症、皮膚筋炎など

＜物理化学的皮膚障害・光線性皮膚疾患＞日光皮膚炎、熱傷、凍瘡、化学熱傷、放射線皮膚炎、褥瘡など

＜水疱症・膿疱症＞天疱瘡、水疱性類天疱瘡、掌蹠膿疱症など

＜角化症＞乾癬、類乾癬、魚鱗癬、苔癬、鶏眼、胼胝など

＜色素異常症＞尋常性白斑、老人性色素斑など

＜真皮、皮下脂肪組織の疾患＞結節性紅斑、脂肪織炎など

＜付属器疾患＞尋常性痤瘡、円形脱毛症、爪甲の変化(爪甲剥離、陥入爪)、男性型脱毛症*など(*保険適応外)

＜母斑と神経皮膚症候群＞母斑細胞母斑、神経線維腫症など

＜皮膚の良性腫瘍＞脂漏性角化症、表皮嚢腫、化膿性肉芽腫、皮膚線維腫など

＜皮膚の悪性腫瘍＞基底細胞癌、有棘細胞癌、光線角化症、Bowen病、癌の皮膚転移、悪性黒色腫(メラノーマ)など

＜ウイルス感染症＞水痘、帯状疱疹、尋常性疣贅、伝染性軟属腫など

＜細菌感染症＞伝染性膿痂疹、丹毒、蜂窩織炎、壊死性筋膜炎など

＜真菌症＞白癬(手、足、爪、体部、股部)、皮膚カンジダ症、癬風など

＜抗酸菌感染症＞皮膚結核、硬結性紅斑など

＜性感染症＞尖圭コンジローム、梅毒など

＜節足動物などによる皮膚疾患＞虫刺症、蜂刺症、マダニ刺症、疥癬など

主な検査・治療

《検査》

- 顕微鏡検査：真菌（糸状菌、カンジダ）やダニなどの検出
- ダーモスコピー検査：母斑、腫瘍等の鑑別
- アレルギー検査：
 - ・パッチテスト：歯科金属のアレルギー検査（施行時期に制限あり）
 - ・プリックテスト：ミルクアレルギーテスト（小児科併診）
- 皮膚生検：皮膚病変の確定診断や疾病の深達度など診断するため、病変を含めて皮膚を一部切除し、病理学的に診断を行う検査です。局所麻酔下に実施しますので、以前に抜歯などの際、局所麻酔で気分が悪くなった方は、予めその旨お教えください。

《治療》

- 冷凍凝固療法：イボなどの良性腫瘍、表在性の皮膚悪性腫瘍に対して適応
- 局所注射法：術後瘢痕、ケロイドなどへのステロイド局所注射

■光線療法：

- ・narrowband-UVB（全身型）（適応症：乾癬、アトピー性皮膚炎、掌蹠膿疱症、尋常性白斑、結節性痒疹など）
- ・エキシマライト治療：（適応症：乾癬、掌蹠膿疱症、尋常性白斑、円形脱毛症）

■巻き爪の治療：

- ・弾性ワイヤー治療（要部品代）
- ・陥入爪根治術（フェノール法）

■外来または入院による手術（皮膚皮下腫瘍切除術、皮膚悪性腫瘍切除術）：

- ・基本的には局所麻酔で行います。
- ・皮弁形成術、植皮術は患部の大きさにより全身麻酔下となります。

《自由診療（保険適用外）》

- 男性型脱毛症：プロペシア、ザガーロ

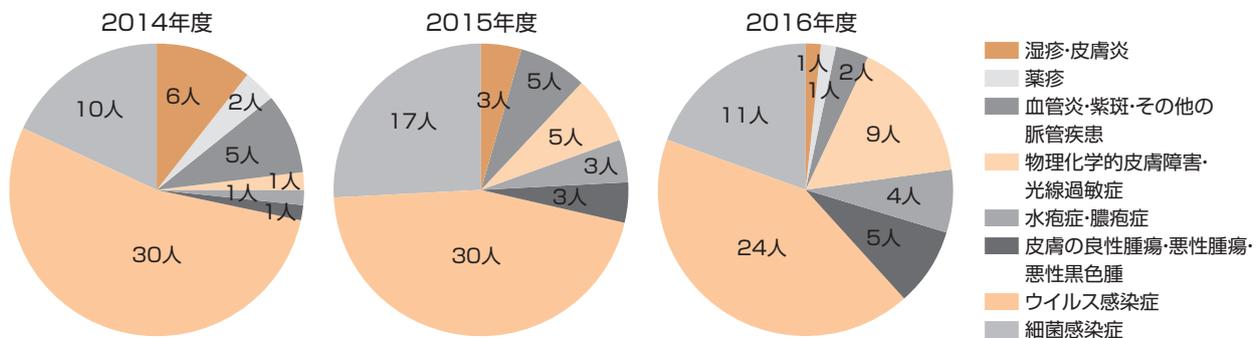
診療実績

■外来、入院統計

		2015年度	2016年度	2017年度
外来患者数	名	4,535	4,405	4,188
外来新患数	名	252	254	223
入院患者数	名	56	66	57
延入院患者数	日	701	918	817

検査・手術		2015年度	2016年度	2017年度
皮膚組織試験採術（皮膚生検）		45	43	48
皮膚皮下腫瘍摘出術	入院	1	2	1
	外来	20	20	25
陥入爪根治術	入院	0	0	0
	外来	6	4	4
皮膚悪性腫瘍切除術	入院	0	1	3
	外来	3	3	0

■入院治療疾患内訳



今後の評価と来年度への展開

皮膚科は専門的な面のみならず、他科とのつながりも深い診療科です。地域の皆様の病気、健康増進に少し

でもお役に立てられるように、日々研鑽を積み重ねていきたいと思っております。宜しくお願い致します。

Dept. of pediatrics

小児科

子どもの心と体の健康維持に誠実に取り組みます。

■診療担当医 ※2018年7月31日現在



診療部長

山田 克彦

(やまだ かつひこ)

大分医科大学 平成2年卒
 日本小児科学会認定 小児科専門医 指導医
 日本循環器学会認定 循環器専門医
 日本川崎病学会会員
 日本小児アレルギー学会会員



部長

犬塚 幹

(いぬづか みき)

大分医科大学 平成6年卒
 日本小児科学会認定 小児科専門医
 日本小児神経学会認定 小児神経専門医
 日本てんかん学会認定 てんかん専門医 指導医
 日本小児心身医学会会員
 日本小児東洋医学会会員

診療内容

地域の子どもの心と体のすこやかな成長を支援し、保護者への懇切でいねいな説明を心がけています。

新生児を除く乳児から思春期にかけての小児期発症の内科的疾患を、常勤医2名体制で、地域の先生方からのご紹介患者さんを中心に診療しています。また、

医師の専門性を生かして、小児循環器疾患、小児神経疾患の専門医療を行っています。

「子どもの現代病」とも言われる、食物アレルギー、生活習慣病(肥満)、起立性調節障害や心身症の診療にも正面から取り組んでいます。

診療実績

■入院(表1)

区分	件数
入院延患者数	799
新入院患者数	138

■入院患者の内訳(表2)

ICD	分類	件数	主な疾患	件数
A-B	感染症および寄生虫症	18	胃腸炎	15
E	内分泌、栄養および代謝疾患	26	低身長	14
G	神経系の疾患	10	てんかん	6
H	耳および乳様突起の疾患	2		
I	循環器系の疾患	1		
J	呼吸器系の疾患	53	肺炎	27
L	皮膚および皮下組織の疾患	4		
M	筋骨格系および結合組織の疾患	7	川崎病	7
N	泌尿路生殖器系の疾患	4	尿路感染症	3
T	損傷、中毒およびその他の外因の影響	13	食物アレルギー	12
合計		138		

■ 外来

区 分	件 数
外来延患者数	3,481
初診（新規 ID 取得）患者数	347

■ 専門的医療

区 分	件 数
心身症カウンセリング	150
脳波検査	167
心エコー検査	229
トレッドミル試験	9
経口糖負荷試験（OGTT）	23
経口負荷試験（食物アレルギー）	12
成長ホルモン分泌刺激試験	14

重点目標・評価と来年度への展開

わが国の小児科は、前世紀末から小児医療提供体制の存続の危機が表面化し、対策として日本小児科学会が主導するモデル案に沿った医療資源の集約化、広域化、病診連携の強化が推進されました。

当院小児科は、学会案で言うところの「一般病院小児科」であり、比較的軽症の小児科疾患の入院治療を受け持つほか、地域の一次救急医療に当番で参加すること、地域小児科センターと医療・人員の両面で交流することが求められており、これに沿った小児医療の提供を行っています。

入院診療の内訳は表1、2に示すとおり、新生児や重症患者を除いて幅広い領域をカバーしています。重症患者でなくても高度医療は必要です。当科では非重症患者が重症化しないよう、乳児の急性細気管支炎に対するネーザルハイフロー療法、川崎病ハイリスク例に対する初期治療としての免疫グロブリン／プレドニゾロン併用療法を地域に先駆けて導入し、てんかん患者に適切な診断・治療を行うための発作時脳波モニタリングを行い、朝起き不良に苦しむ子供たちに有用性が知られていながら普及に至っていない高照度光療法を導入しました。

また、地域の一次救急医療には、佐世保市立急病診

療所に開業の先生方と協力して当番で参加しています。

私たちの専門性（サブスペシャリティ）は小児循環器疾患と小児神経疾患です。これらの専門外来を当科で行うほか、佐世保市総合医療センター（循環器、神経）、佐世保市こども発達センター（神経）の各専門外来に診療応援で勤務し、特別支援学校の医療ケアの指導に赴き、また学校心臓病健診の二次検診と精査、小児生活習慣病検診の精査、学校や市民公開講座等での講演（2017年度計9回、別項）を通じて専門性を地域に還元しています。

さらに、県北地域には小児心療科がないので、臨床心理士（非常勤）の協力の元、地域に先駆けて心身症外来を、また管理栄養士や理学療法士の協力で小児生活習慣病外来を開設、運営しています。

良質な医療の提供のためには研究活動も重要です。2017年度の学会発表は8演題でした（別項）。診療科規模に比して活発であると自負しています。

私たちは一般病院小児科が地域貢献できる最善の医療、さらに当院の基本理念「患者さんが1日も早く社会に復帰される事を願います」に通じる、私たちだからできる最良の医療の提供を目指します。

Dept. of urology

泌尿器科

基幹病院として「前立腺がん撲滅キャンペーン」に積極的に参加しています。

■診療担当医 ※2018年7月31日現在



部長
徳永 亨介
(とくなが こうすけ)

金沢医科大学 平成 8年卒
日本泌尿器科学会認定専門医



理事
非常勤
南 祐三
(みなみ ゆうぞう)

東京医科大学 昭和53年卒

診療内容

男性特有の病気である前立腺疾患をはじめとして、排尿に関係するすべての臓器（腎臓、尿管、膀胱、尿道）の疾患の患者さん（女性・小児を含む）を対象に、診断、治療を行っています。

診療している主な疾患は以下のとおりです。

〈前立腺疾患〉前立腺肥大症、前立腺がん、前立腺炎など

〈尿路結石症〉腎臓結石、尿管結石、膀胱結石、尿道結石など

〈尿路感染症〉腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎など

〈その他〉脳・脊髄障害による神経因性膀胱、尿失禁、勃起障害、腎臓がん、膀胱がん、アルドステロン症・クッシング症候群などの副腎疾患、停留精巣など

日本人の前立腺がんは近年急増しており、この10年間で死亡者数がおよそ2倍になっています。高齢化が進む中であって、患者数はさらに増加することが懸念されています。当科は、国が5ヵ年計画で取り組んでいる「前立腺がん撲滅キャンペーン」に、佐世保の基幹病院として積極的に参加しています。

診療実績

全く自分自身の排尿状況と重なることに気づく今日の頃であります。むしろ患者さんの立場での診療ができ有り難く思っております。

当院も地域医療支援病院の資格が与えられ、当科がいかに地域に貢献できるかという診療姿勢が問われております。そうとはいえ、診療能力（マンパワー）が資格取得後に大幅にアップしたわけではありません。資格取得前と同じマンパワーで、従来よりもさらに地域に貢献できる診療体制を築くためにはいかにあるべきかを考えます。

それを達成できるかどうかは、一つはいかに地域の医療機関と連携できるかが重要な課題であろうことは推察

できます。病診連携は各施設でそれぞれに努力されており、少しずつではありますが結果が出てきている状況です。ただ、病病連携となると、まだまだ各基幹病院間に長年の壁があり、連携がうまくとれず患者さんにご迷惑をおかけするようなことを経験されるのが現状でありましょう。

2017年度は各基幹病院の得意分野や施設基準を踏まえての病病連携を行い、当科が特化できる分野を他の医療機関に認知していただいて、その事を基礎においた地域医療貢献を念頭において活動してきたつもりですが、まだまだ認知度が低く次年度も頑張っって理念達成のための努力を継続する覚悟であります。

■主な診療実績

経尿道的膀胱腫瘍切除術	14例	その他(小手術)	6例
経尿道的前立腺切除術	2例	前立腺針生検	41例

Dept. of ophthalmology

眼科

網膜や黄斑、白内障などの専門的診断・治療を実施しています。

■診療担当医 ※2018年7月31日現在

副部長

和田 光代

(わだ みつよ)

防衛大学 平成7年卒



非常勤

隈上 武志

(くまがみ たけし)

鳥取大学 平成3年卒
日本眼科学会専門医

診療内容

2016年7月より、これまでの「非常勤1名」の体制から「常勤医1名+非常勤1名」体制へ変更となりました。多くの方の御尽力を賜り、2017年2月より、入院手術加療も開始できました。この病院で治療してよかったと提供いただけるような眼科診療を目標に、日々取り組んで参ります。

【主な疾患】

白内障、緑内障、結膜炎、ドライアイ、アレルギー、麦粒腫、ぶどう膜炎、硝子体出血、糖尿病網膜症、網膜裂孔、網膜剥離、黄斑変性など

診療実績

2017年度 新患数 238名

再診数 2,398名

■検査 ※2017年4月～2018年3月

精密眼底検査(片側)..... 4,371例
精密眼圧検査..... 2,375例
屈折検査..... 2,232例
細隙灯顕微鏡検査(前眼部及び後眼部) 2,049例
細隙灯顕微鏡検査(前眼部)..... 583例
細隙灯顕微鏡検査(前眼部)(生体染色) 243例
静的量的視野検査(片側)..... 768例
動的量的視野検査(片側)..... 248例
眼底三次元画像解析..... 1,686例
眼底カメラ撮影..... 17例
眼底カメラ(自発蛍光撮影法の場合)..... 359例
眼底カメラ撮影(蛍光眼底法の場合)..... 44例

矯正視力検査..... 248例
眼筋機能精密検査及び輻輳検査..... 115例
色覚検査..... 183例
中心フリッカー試験..... 112例
角膜内皮細胞検査..... 140例
眼球突出度測定..... 35例
精密視野検査..... 70例
涙管通水検査..... 49例
前房隅角検査..... 14例
角膜曲率半径計測..... 79例
網膜電位図(ERG)..... 8例
立体視検査(ステレオテスト)..... 1例

■手術 ※2017年4月～2018年3月

水晶体再建術(眼内レンズを挿入する場合)(その他のもの)	62例
水晶体再建術(眼内レンズを挿入する場合)(縫着レンズを挿入するもの)	1例
硝子体茎顕微鏡下離断術	5例
網膜光凝固術	44例
後発白内障手術	7例
虹彩光凝固術	3例
結膜腫瘍摘出術	1例
結膜結石除去術(多数のもの)	1例
霰粒腫摘出術	1例

■注射

テノン氏嚢内注射	12例
硝子体内注射	114例

■処置 ※2017年4月～2018年3月

眼処置	15例
睫毛抜去	5例
霰粒腫の穿刺	2例

重点目標・評価と来年度への展開

- ・患者さんの目の健康を守るため、的確でやさしい診療を目指します。
- ・最新の医療情報を提供できるよう、日々専門知識の習得に努めます。

Dept. of Otolaryngology

耳鼻咽喉科

中耳炎や難聴、鼻炎・副鼻腔炎などの専門的診断・治療を実施しています。

■診療担当医 ※2018年7月31日現在



部長

大里 康雄

(おおさと やすお)

長崎大学 平成9年卒
日本耳鼻咽喉科学会専門医

診療内容

現在、耳鼻咽喉科は、常勤医1名+非常勤1名にて診療を行っています。

よって、頭頸部腫瘍手術などに関しましては当科では対応できませんが、それ以外の領域につきましては、従来と同様のサービスを提供できるよう、努力しております。

<耳疾患>

- ・めまい、難聴などの精査や治療
- ・滲出性中耳炎の治療や、鼓膜チューブ留置術
- ・慢性中耳炎、真珠腫性中耳炎などに対する精査や、鼓膜形成手術・鼓室形成手術
- ・急性中耳炎、耳内異物などに対する処置や治療

<鼻疾患>

- ・アレルギー性鼻炎に対する精査や、薬物治療・外科的治療など
- ・慢性副鼻腔炎、副鼻腔囊腫、鼻中隔彎曲症、鼻骨骨折などに対する手術

- ・急性鼻炎、鼻出血、嗅覚障害、鼻腔内異物などに対する処置や治療

<咽喉頭・頸部疾患>

- ・咽喉頭炎、扁桃炎、唾液腺炎、頸部リンパ節炎など、急性炎症に対する治療
- ・慢性扁桃炎、扁桃病巣感染症、閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する扁桃摘出手術
- ・小児の滲出性中耳炎に対するアデノイド切除術・口蓋扁桃摘出手術
- ・咽頭異物に対する内視鏡下異物摘出術
- ・咽喉頭領域の悪性腫瘍に対する組織検査や放射線治療
- ・嚥下障害の症例に対する嚥下内視鏡検査や、言語聴覚士による嚥下リハビリテーション

診療実績

嚥下機能評価(嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査).....30例
両側口蓋扁桃摘出術.....10例
気管切開術.....10例

内視鏡下鼻内副鼻腔手術.....4例
鼓室形成術.....1例
鼓膜形成術.....1例

Dept. of Radiology

放射線科

胸腹部の悪性腫瘍治療にハイパーサーミアを積極的に使用しています。

■診療担当医 ※2018年7月31日現在



理事・副院長
地域医療連携センター長
医療情報本部長

平尾 幸一
(ひらお こういち)

長崎大学 昭和56年卒
医学博士
日本医学放射線学会診断専門医
日本医学放射線学会研修指導者
日本ハイパーサーミア学会認定医
検診マンモグラフィ読影認定医
九州山口ハイパーサーミア研究会世話人



診療部長
堀上 謙作
(ほりかみ けんさく)

長崎大学 平成5年卒
医学博士
日本医学放射線学会診断専門医
日本医学放射線学会研修指導者
検診マンモグラフィ読影認定医



部長
末吉 真
(すえよし まこと)

長崎大学 平成8年卒
日本医学放射線学会診断専門医
日本医学放射線学会研修指導者

非常勤

林 邦昭
(はやし くにあき)

長崎大学 昭和39年卒
医学博士
日本医学放射線学会診断専門医

非常勤

山崎 拓也
(やまざき たくや)

宮崎大学 平成8年卒
日本医学放射線学会治療専門医
日本放射線腫瘍学会認定医
日本がん治療認定医

診療内容

画像診断業務

- CT、MRI、核医学、血管造影（心臓カテーテル検査、脳血管造影以外）による検査と診断は全て放射線科が行っています。
- CT、MRI検査は、地域医療機関に積極的に利用していただいています。（1,432件/年）
- 当院の特徴の一つは、胸部単純X線写真の読影を行っていることであり、主治医とのダブルチェックの役割を果たしています。
- 検診マンモグラフィ読影は、マンモグラフィ読影認定医3名（放射線科及び外科）がダブルチェックを行っています。
- 検診の胸部写真・肺CT・脳MRIは放射線科と健診センター（健診医）がダブルチェックを行っています。
- CT、MRI、核医学の報告書は約98%が検査後24時間以内に作成されています。

IVR

- 血管系IVRは肝腫瘍に対する肝動脈化学塞栓療法が最も多い割合を占めています。
- 内視鏡的止血が困難な症例に対して消化管出血の動脈塞栓術を実施しています。
- 非血管系のIVRは胆道系（ドレナージや胆道内瘻化）、膿瘍ドレナージが多くを占めています。
- 胸腹部大動脈ステント留置術を心臓血管外科と共同で行っています。

放射線治療・ハイパーサーミア（温熱療法）

- 毎週水曜日に、長崎大学の日本医学放射線学会治療専門医による放射線治療計画を行っています。
- 地域医療機関より、乳房温存術後や子宮がんの放射線治療依頼を受けています。
- 他院で化学療法を受けている方でも当院でハイパーサーミア（温熱療法）を受けることが可能です。

診療実績

■画像診断

胸部単純X線写真読影	21,312件
血管造影検査	178件
CT	14,541件
MRI	8,047件
マンモグラフィ	2,592件
核医学検査	926件

■IVR

血管系IVR	
肝動脈化学塞栓療法	21件
消化管出血の塞栓術	6件
透析シャントの血管拡張術	35件
大動脈ステント内挿術	28件
その他	12件
非血管系IVR	
胆道ドレナージ・内瘻化	10件
膿瘍ドレナージ	4件
生検(CTガイド下)	14件
マーキング(CTガイド下)	2件

■放射線治療

乳房	45件
肺	7件
膀胱・前立腺	20件
肝臓・胆道・膵臓	3件
食道	6件
その他	76件

■ハイパーサーミア 24件

外来診療体制

■画像診断業務・血管造影検査・IVR

月～金曜日 8:30～17:30

地域医療機関からの検査依頼も上記時間に実施しています。

なお救急等の緊急検査依頼は、365日24時間対応しています。

■放射線治療

毎週水曜日に、長崎大学の日本医学放射線学会治療専門医による放射線治療計画を行っています。なお、水曜日が祝日の場合には、曜日を変更して放射線治療計画を立てて行きます。

■ハイパーサーミア

日本ハイパーサーミア学会認定医、臨床工学技士、看護師が共同で治療を実施しています。また、セカンドオピニオン外来も行っています。

■健診への協力

健診画像(肺CT、脳MRI、胸部写真、マンモグラフィ)の全件を読影しています。

認定施設

- ・日本医学放射線学会専門医修練機関
- ・日本ハイパーサーミア学会認定施設

- ・マンモグラフィ検診施設画像認定施設

Dept. of anesthesiology

麻酔科

術中の麻酔管理とICUの管理・運営を行っています。

■ 診療担当医 ※2018年7月31日現在



診療部長
堤 雅俊
(つつみ まさとし)

長崎大学 昭和62年卒
麻酔標榜医



部長・ICU部長
福島 浩
(ふくしま ひろし)

長崎大学 平成5年卒



副部長
吉村 真紀
(よしむら まき)

大分医科大学 平成7年卒
医学博士
麻酔標榜医

診療内容

当科はスタッフ3名で術中麻酔管理を主な仕事としており、そのほとんどは全身麻酔症例です。また、ICUにお

いて看護課長・主任と共に管理・運営を行っています。

診療実績

2017年度の手術症例は1,687例で、全身麻酔症例は1,083例(うち緊急手術は115例)です。

全身麻酔の各科別の内訳は外科458例(緊急61例)・脳神経外科122例(緊急40例)・心臓血管外科342例(緊急11例)・整形外科137例(緊急1例)・耳鼻咽喉科17例(緊急0例)・泌尿器科2例(緊急1例)です。

麻酔法はセボフルレン・レミフェンタニルによるバランス麻酔またはプロポフォール・レミフェンタニルによる全静脈麻酔です。また、術後の疼痛管理を考え、積極的に硬膜外麻酔を併用しています。

ICUは10床で運営しており、重症者と術後(主に全身麻酔後)を受け入れています。

2017年度は1,123名の入室があり、稼働率は85.2%で1月が92.3%と最も高く、4月が72.0%と最も低い稼働です。内訳は外科450名・脳神経外科348名・循環器内科89名・心臓血管外科159名・一般内科58名・消化器内科15名・整形外科4名です。

Dept. of Pathology

病理部

他診療科医と連携して病理診断やカンファレンスを実施しています。

■診療担当医 ※2018年7月31日現在



診療部長
臨床検査部長

米満 伸久

(よねみつ のぶひさ)

長崎大学 昭和56年卒
医学博士
日本病理学会病理専門医・研修指導医
日本臨床細胞学会細胞診専門医・指導医
日本臨床検査医学会管理医
死体解剖資格
ICD(インフェクション・コントロールドクター)
佐賀大学医学部臨床教授
佐賀大学医学部非常勤講師
佐世保市医師会看護学校非常勤講師
Pathology International編集委員

非常勤

尹 漢勝

(ゆん かんかつ)

長崎大学 昭和50年卒
医学博士
日本臨床病理学会病理専門医・研修指導医
死体解剖資格
長崎大学大学院薬学総合研究科病理学 客員教授

非常勤

戸田 修二

(とだ しゅうじ)

佐賀大学 昭和59年卒
医学博士
日本臨床病理学会病理専門医・研修指導医
日本臨床細胞学会細胞診専門医・指導医
死体解剖資格
佐賀大学医学部 病因病態科学講座 臨床病態病理学 教授

非常勤

福岡 順也

(ふくおか じゅんや)

滋賀医科大学 平成7年卒
医学博士
日本臨床病理学会病理専門医・研修指導医
日本臨床細胞学会細胞診専門医・指導医
死体解剖資格
長崎大学大学院病理学 教授



非常勤

力武 美保子

(りきたけ みほこ)

佐賀大学 平成19年卒
日本病理学会病理専門医
死体解剖資格
佐賀大学医学部病院病態科学講座臨床病態病理学 助教

非常勤

安達 真希子

(あだち まきこ)

佐賀大学 平成22年卒

非常勤

上木 望

(うえき のぞみ)

長崎大学 平成24年卒

非常勤

唐田 博貴

(からた ひろき)

富山大学 平成26年卒

非常勤

黒田 揮志夫

(くろだ きしお)

富山大学 平成22年卒

診療内容

日々の細胞診、生検診断、手術摘出臓器の病理診断、術中迅速診断、病理解剖および臨床病理カンファレンスを主な業務としています。

細胞診では、婦人科細胞診や尿細胞診はLiquid base cytology (LBC)を用いており、胸腹水、甲状腺など、他の領域でもLBC法を併用することにより、細胞を効率的に収集し診断するとともに、免疫組織化学や分子生物学への試料の応用を開始しました。穿刺細胞診もより良い標本を作成するため、細胞検査士をはじめとする病理部のスタッフが穿刺現場で、臨床医が採取し

た検体の処理に当たっています。

生検診断や摘出臓器の診断ではH.E.染色や特殊染色に加え、免疫組織化学がルーチン化されています。自動免疫染色装置を用いて作業の効率化を図るとともに、精度の高い染色を行っています。乳腺では従来からホルモンレセプターやHER2の染色のため、免疫組織化学が行われています。HER2染色では組織の固定状態が重要ですので、摘出後なるべく早く緩衝ホルマリンを摘出臓器に注入固定するようにしています。また、胃癌においても分子標的治療の開始に伴いHER2

染色やFISHによる診断と、大腸癌や肺癌でも分子標的治療の為の遺伝子診断を行っています。この為、手術摘出臓器も含め、原則的に中性緩衝ホルマリンで固定を行っています。

消化器科や外科系の医師とは、摘出臓器の切り出し時に立ち会ってもらい、実際の臓器の所見を術前の画像診断等と付き合わせて切り出しています。術前カンファレンスへの参加とともに、臨床医がそれぞれの症例で何を問題としているかをお互いに確認しつつ、臓器の検索を行うことが可能です。生検診断、摘出臓器の診断とともに、可能な限り早急に結果を臨床医に報告しています。消化器系の摘出標本については、毎週術前カンファレンス後に、術後の臨床病理カンファレンスで症例を呈示しています。消化器系以外の外科提出標本については、毎月合同カンファレンスを開催し、興味のある症例についてより詳細に検討を加えています。必要があれば、これらのカンファレンス後の追加検討も行っています。カンサーボードにも同様に密に関与しています。また腎生検では蛍光抗体法を含め腎臓内科医と一緒に組織を検鏡し、臨床データと照合しつつ診断のみならず治療方針も検討しています。

術中迅速診断では、乳腺のセンチネルリンパ節および温存術に於ける断端の検索が著しく増加しています。

1例にかかる時間が長くなる傾向にあります。クリオスタット1台と病理部の技士数からいたしかたないところで。また術中細胞診との併用も日常的に行い、より精度

の高い術中診断を行えるようになりました。

剖検はどこの施設でも年を追って減少していますが、当院でも剖検数が減少しています。剖検症例はほぼ全例実際の固定臓器を示しながら、組織所見もまじえてCPCを行うことで解剖の結果を臨床へ還元しています。2017年度はCPCを5回開催しました。またご希望のあるご遺族には主治医からCPCをふまえた最終的な結果を報告させていただいています。

学会や研究会の支援も病理部で力を入れており、病理に関連したスライドの作成依頼は例年20例程度あります。若い医師には消化器のカンファレンスなどで内視鏡所見やESDなどの所見と照らし合わせつつ、病理所見も自ら発表しています。また病理部としての学会活動や研究会での発表の他、学会誌の編集委員としての査読業務、論文や教科書の執筆などの学術活動、大学や看護学校での講義などの活動も幅広く行いました。

佐賀大学病理学教室や長崎大学原研病理学教室・病理部とも密接な連携関係にあります。大学の教授以下スタッフにも病理診断に加わっていただき、ほぼ全症例をダブルチェック、あるいはトリプルチェックしています。また、大学の教室の協力により、一人病理医のフォローアップとともに、大学の若手の先生の人体病理学の卒後教育にも積極的に取り組んでいます。

また、長崎大学とVPNを接続し、デジタルパソロジーによるコンサルテーションシステムが2016年11月より稼働しています。

診療実績

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
組織診断	2,358件	2,922件	3,161件	3,122件	3,226件
細胞診断	4,837件	4,892件	5,291件	5,232件	5,128件
解剖	10件	14件	12件	10件	10件
剖検CPC	11件	7件	9件	5件	5件
診療病理カンファレンス	51件	48件	45件	45件	52件

Dept. of Medical Center of Cognitive Disorders

認知症疾患医療センター

認知症は、早めの発見・早めの治療が大切です。

■診療担当医 ※2018年7月31日現在

認知症統括顧問
センター長**井手 芳彦**

(いで よしひこ)

長崎大学 昭和46年卒
医学博士
認知症サポート医
日本神経学会認定専門医
日本内科学認定内科医

診療内容

全国的に増え続ける認知症患者さんに対応して、当法人では2009年10月に長崎県から「認知症疾患医療センター」の認可を受け、同年12月から診療を開始しました。

認知症専門医1名、精神保健福祉士2名、高次脳機能検査担当作業療法士(OT)1名、専任看護師2名、専任診療アシスタント1名、医療秘書1名の総勢8名で運営しています。

認知症およびその疑いのある患者さんを診察し、確定診断と治療/介護方針を立て、地域の紹介元医師(かかりつけ医)、あるいは「認知症診療医」に紹介し、包括支援センター・介護施設へも誘導し、適切な治療と介護のアドバイスをを行っています。

通常の診療では、ご家族から詳細な問診を行い、本

人の診察、高次脳機能検査、脳MRIかCTを施行します。場合によって、脳血流SPECT、MIBG心筋シンチグラム、DAT-Scanまで行います。

病歴と高次脳機能検査で直ちに診断がつく認知症もありますが、正常加齢か認知症初期かが判然としないMCIが最近増えてきました。行動・心理的症状(BPSD)を伴う患者さんの場合は、ご家族への適切な介護指導と、BPSDをやわらげる薬物処方や連携精神科病院への紹介を迅速にし、介護者の肉体・精神的負担を軽くすることを第一に考えています。

2011年春から夏にかけて、新しい認知症治療薬が3種類登場しましたので、これらの新薬を含め4種類の認知症治療薬について、認知症講演会や勉強会を開催し、市内の認知症診療医を中心に、新薬の適応や使い分けの研修を続けています。

診療実績

当センターの受診希望者は増える一方です。予約から初診までの平均待ち期間が2ヶ月と長かったのが悩みの種でしたが、現在では1ヶ月に短縮しました。

月曜日～木曜日は午前中の2時間半、午後の1時間を、金曜日は午後の2時間を外来診療に当て、月平均35名の新規患者さんを診ています。

2017年4月から2018年3月までの1年間で、ご家族か

ら直接あるいは医療機関経由で、初診患者さん377人の診察を行いました。また、電話・面談では年間997件の相談を受けました。

鑑別診断の内訳は、正常加齢と認知症の境界(MCI)が10%、アルツハイマー型認知症(AD)が約52%、その80%以上はなんらかの血管障害(慢性脳虚血)を伴っています。レビー小体型認知症(DLB)が

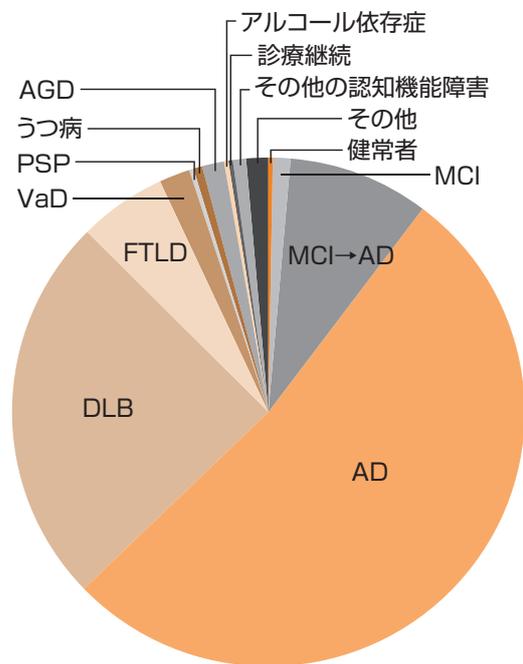
24%、前頭側頭葉変性症 (FTLD) が6%です。純粋な血管性認知症は2%です。なかでもDLBとFTLDがじわりと増えてきました。DLBは心臓突然死が危惧され運動障害も加わりますので、他の認知症に比べて薬物治療・介護に気を遣います。FTLDはBPSDが最も出やすく、在宅での介護は実際上非常に困難です。しかし、新薬メマンチンの登場で、ある程度の段階までは在宅でも介護が可能になりました。

受診予約をして診療待ちの家族、および確定診断のついた患者さんの家族を対象に、佐世保中央病院講義室で「認知症健康教室:メモリー・クラスルーム」を月

1回行っています。認知症の基礎、介護の基礎、介護保険のしくみと介護施設の上手な利用法などを、我々スタッフが分担して3時間ほど講義します。最後に「認知症の人と家族の会」に所属する介護経験者による介護体験記を聴いていただきます。授業に参加したご家族からは、患者さんの心の中がよくわかるようになり対応がやさしくなった結果、患者さんのBPSDが少なくなり介護が楽になった、という声が多数聴かれるようになりました。今後は、一般かかりつけ医の診療を受けている認知症患者さんの家族にも門戸を開き、より多くの家族がこの授業を受けていただきたいと考えています。

■疾患別割合 (2017.4.1~2018.3.31)

疾患名	人数	%
健常者	1	0.3
MCI	5	1.3
MCI→AD	33	8.8
アルツハイマー型認知症 (AD)	198	52.5
レビー小体型認知症 (DLB)	93	24.7
前頭側頭葉変性症 (FTLD)	21	5.6
血管性認知症 (VaD)	7	1.9
進行性核上性麻痺 (PSP)	2	0.5
うつ病	2	0.5
AGD	5	1.3
アルコール依存症	1	0.3
診療継続	1	0.3
その他の認知機能障害	3	0.8
その他	5	1.3
合計	377	100.0



■相談件数

(単位:件)

	相談件数	初診のための相談	定期受診・その他
相談件数	997	763	234
電話		708	—
面談		55	—

■診療件数 577件

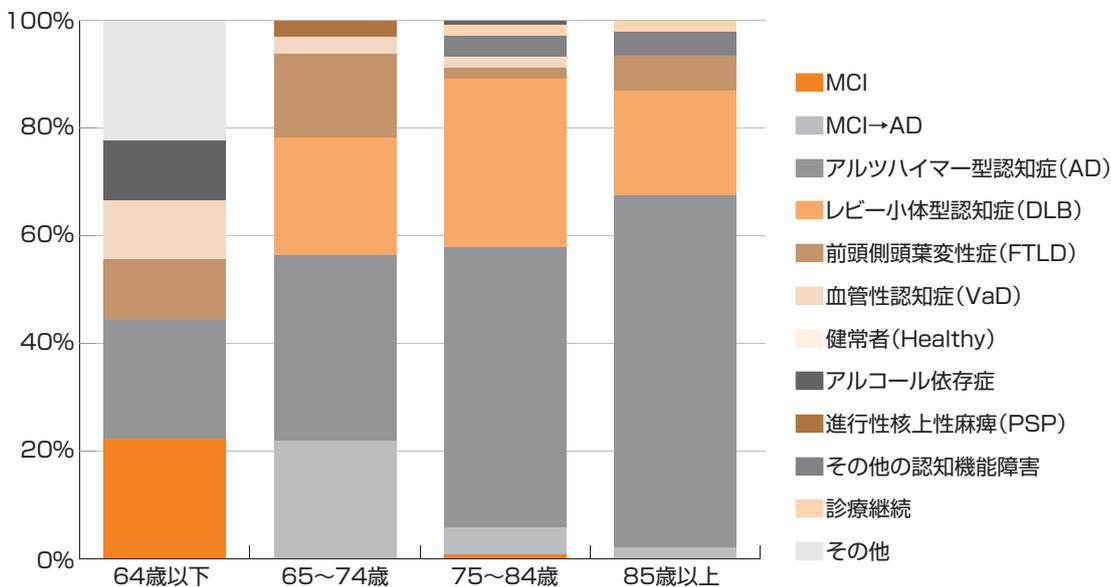
(単位:件)

	初診	追加検査の結果説明	薬効評価	定期受診
患者数	377	72	36	92
紹介状あり	354	—	—	—
紹介状なし	23	—	—	—

■年代別 疾患 (2017.4.1~2018.3.31)

	~64	65~74	75~84	85~
受診者数(人)	9	32	102	46
健常者(Healthy)	0	0	0	0
MCI	22.2	0	0.9	0
MCI→AD	0	21.9	4.9	2.2
アルツハイマー型認知症(AD)	22.2	34.4	52	65.2
レビー小体型認知症(DLB)	0	21.9	31.4	19.6
前頭側頭葉変性症(FTLD)	11.1	15.6	2	6.5
血管性認知症(VaD)	11.1	3.1	2	0
進行性核上性麻痺(PSP)	0	3.1	0	0
アルコール依存症	11.1	0	0	0
その他の認知機能障害	0	0	3.9	4.3
診療継続	0	0	2	2.2
その他	22.2	0	0.9	0

(単位:%)



■初診受診者居住地

(単位:人) 市外：平戸市(10)、西海市(15)、松浦市(9)、南島原市(1)
諫早市(1)、佐々町(4)、波佐見町(7)、川棚町(5)、
他(3)
県外：佐賀県、その他(4) (単位:人)

	2017.4.1~2018.3.31
佐世保市内	318(84.4%)
市外・県外	59(15.6%)

■初診患者の介護保険

(単位:人)

	2017.4.1~2018.3.31
介護保険有り(人)	150
介護保険無し(人)	227
佐世保市内地域包括支援センターへの紹介(市内在住のみ)	141/181 (77.9%)

■画像検査

初診：頭部MRIまたはCT(必須)

RI検査(脳血流SPECT検査 MIBG心筋シンチ DAT-scan SPECT)

■心理検査

高次脳機能検査(必須)：ADAS-J cog、MMSE、FAB、CDT、Noise pareidolia test 他)

うつスコア(必要時)：SDS、GDS-15

■初診受診の年代・男女別(人)

	～64歳	65～74歳	75～84歳	85歳～	合計
男性	12	30	65	28	135
女性	11	36	136	59	242
合計	23	66	201	87	377

■主な認知症疾患医療センター主催・共催の事業報告

《市民公開講座：2017年7月8日》

テーマ：認知症になっても、皆がこの街で住み続けられるために

特別講演：認知症当事者の声を地域で聞いて、地域で考えるー富士宮モデルー

講師：NPO法人 認知症フレンドシップ富士宮事務局 稲垣康次氏

《第26回長崎県北認知症研究会：2017年11月10日》

テーマ：「認知症高齢者の自動車運転を考える～認知症高齢者の安全と安心のために～」

講師：国立長寿医療研究センター 長寿政策科学研究部 部長 荒井由美子 医師

《認知症サポート医等フォローアップ研修：2018年3月17日》

多職種グループによる事例検討会

認知症予防に関する最近の取り組み、コグニサイズ他

高齢者・認知症の人の自動車運転について当センターの取り組み紹介

《メモリークラスルーム：毎月開催》

偶数月：初級編 「認知症ってどういう病気？」他

奇数月：中級編 「各疾患別の具体的な対応方法について ～寸劇をまじえて～」他

土曜日 9:00～12:30

《認知症予防トレーナー養成講座》

目的：認知症予防に関する正しい知識を地域に広め、地域の活力を向上させる

対象：キャラバンメイト・サポーター養成講座受講者、地域包括支援センター職員 等

内容：認知症の最新情報から、効果的な運動療法など

第3回：2017年7月15日、22日、8月5日

第4回：2017年11月11日、25日、12月2日

第5回：2018年2月3日、17日、3月3日

《前頭葉を鍛えるセミナー》

目 的：「認知症」と診断されても社会と繋がりを保つ

対 象：当センターで「初老期認知症」「MCI→AD」と診断された患者およびその家族

第1回：2017年6月3日

第2回：2018年1月13日

《認知症疾患地域支援ネットワーク会議》

2カ月1回(奇数月)15:00~17:00

《自動車運転免許に関する取り組み》

- ・自動車運転免許証返納の推進
- ・診断書依頼に関する受診相談

■その他

- ・院内職員対象の勉強会(講師)
- ・地域の専門職対象の勉強会(講師)
- ・地域住民対象の介護教室(講師)

Dept. of dentistry

歯科 (入院患者対象)

入院中の患者さんの口腔トラブルに対応いたします。

診療担当医 ※2018年7月31日現在

非常勤

大場 誠悟

(おおば せいご)

長崎大学 平成11年卒
日本口腔外科学会専門医・指導医
歯科医師臨床指導歯科医
日本がん治療認定医機構認定医
日本顎関節学会専門医・指導医

非常勤

河井 洋祐

(かわい ようすけ)

長崎大学 平成15年卒

非常勤

檜原 峻

(ならはら しゅん)

長崎大学 平成25年卒

診療内容

入院中は手術や放射線治療・抗がん剤治療などで一時的に体力を消費させ感染症などのさまざまな合併症を生じることがあります。その中でも全身性感染症（歯性感染症・敗血症など）や誤嚥性肺炎は口腔内細菌が原因の一つとして考えられています。そういった口腔トラブルが原因となって発症する疾患を手術・治療前後の「周術期口腔機能管理」にて予防していきます。また入院中の歯の痛みや入れ歯が合わない・ゆるいなどのトラ

ブルに対しても処置を行っています。

歯科は2016年9月より新しく開設された診療科です。現在3名の非常勤歯科医師が水曜日と金曜日に診療を行っています。また常勤の歯科衛生士が3名、口腔ケアを中心に行っています。

今後も口腔トラブルや周術期の口腔機能管理で患者さんの健康増進に努めていく所存ですのでよろしくお願いたします。

診療実績

2016年9月～2017年3月31日	院内歯科受診者	419名
	院内歯科受診件数(周術期口腔機能管理を含まない)	555件
	周術期口腔機能管理・院内対象者	134名
2016年5月28日～2017年3月31日	NST歯科医師連携加算件数	569件

Health Care Center

健康増進センター

がんや生活習慣病の早期発見を目指し、予防医学活動を行っています。

■診療担当医 ※2018年7月31日現在



センター長
健康管理部部长
中尾 治彦
(なかお はるひこ)

長崎大学 昭和54年卒
医学博士
日本人間ドック学会社員(旧評議員)・ドック指導医・専門医 認定医
日本外科学会認定医
日本消化器病学会専門医
日本消化器外科学会認定医
日本医師会認定産業医
九州予防医学研究会理事



特別顧問
石丸 忠之
(いしまる ただゆき)

長崎大学 昭和42年卒
医学博士
日本産科婦人科学会名誉会員・専門医
日本産婦人科内視鏡学会名誉会員
日本産婦人科手術学会功労会員
日本エンドメトリオース学会顧問
絨毛性疾患研究会顧問
日本医師会認定産業医



部長
寺園 敏昭
(てらその としあき)

長崎大学 昭和59年卒



医長
川内 奈津美
(かわち なつみ)

佐賀大学 平成21年卒
日本内科学会認定内科医
日本人間ドック学会ドック認定医
日本リウマチ学会リウマチ専門医
日本医師会認定産業医
インфекションコントロールドクター

非常勤
元永 博子
(もとなが ひろこ)

東京女子医科大学 昭和53年卒
日本内科学会認定医
日本呼吸器病学会専門医

非常勤
草場 麻里子
(くさば まりこ)

長崎大学 平成9年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医

非常勤
黒田 揮志夫
(くろだ きしお)

富山大学 平成22年卒

非常勤
唐田 博貴
(からた ひろき)

富山大学 平成26年卒

基本理念・基本方針

【基本理念】

受診者の健康を支援し、活力のある地域社会の実現に貢献します。

【基本方針】

1. 生活習慣病の早期発見と予防の啓発に努め、健康の維持・増進をサポートします。
2. 検査技術や診断機器の精度向上を常に心がけ、質の高い健康診断を提供します。
3. 健康診断や保健指導を通して、受診者のライフスタイルを考えた継続的な支援を行います。
4. すべてのスタッフが相互に協力・連携して、受診者の皆様に満足いただけるサービスを提供します。
5. 健康診断業務で得られた個人情報への守秘義務と、受診者ご自身の知る権利を遵守します。

施設沿革

設立：1996年4月1日

沿革：1996年 前身となる白十字会医療社会事業部設立

2002年 佐世保中央病院健康増進センターに改称
(新館建設に伴い検査機器と環境の充実を図る)

2008年 人間ドック学会健診施設機能評価認定取得

認定施設・指定

- ・ 日本人間ドック学会健診施設機能評価 (Ver.3) 認定施設
- ・ 日本人間ドック学会専門医研修指定施設
- ・ 健康保険組合連合会指定健診施設
- ・ 全国健康保険協会管掌健診指定施設

健診内容

健康増進センターは、佐世保中央病院に併設された健診施設で、2002年にそれまでの白十字会医療社会事業部から、新たにゆとりのある空間での快適な受診環境へと整備されました。

ドック基本項目の上部消化管検査と乳がん子宮がん検診などを除いては、ワンフロアで受診可能な環境となっています。人間ドック健診をはじめ、様々な健診において、日本消化器病専門医、日本医学放射線学会専門医、日本内科学会認定内科医、検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師などの各専門スタッフが担

当し、健診の質の確保を図っています。

中尾は主として消化器系及びがん検診、石丸は婦人科系、寺園は主として呼吸器系と内科全般、川内は内科一般、草場は内視鏡を担当しております。

2008年12月、運営の合理性など第三者が評価する人間ドック学会の健診施設機能評価を受審し、認定を取得することができました。これからも、業務内容と環境の両面での見直しを行い、受診者目線で、質とサービスの向上に取り組んでいきたいと考えています。

健診実績

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
1日(日帰り)ドック	1,552	1,588	1,659	1,650
2日(宿泊)ドック	338	336	303	328
健診延べ件数	16,559	16,875	16,711	17,003

健診検査別実施数

検査名	実績数
胃内視鏡	3,253
胃透視	1,925
腹部超音波	2,395
心電図	6,332
眼底	2,253
眼圧	1,998
胸写	7,777
肺CT	708

検査名	実績数
マンモグラフィー	2,597
乳腺超音波	516
脳MRI	479
便潜血	5,782
大腸内視鏡	98
糖負荷試験	241
子宮頸部	3,095
子宮体部	132

研修医の紹介



市川 宏美

(いちかわ ひろみ)

長崎大学 平成29年卒

昨年度は、職種を問わずたくさんの方々にお世話になりました。学びが多く、成長を感じる一年でした。ありがとうございました。今年度は更にステップアップを目指し、精進してまいります。少しでも恩返しができるよう努めます。残り一年間、どうぞよろしく願い申し上げます。

研修期間：2017年4月1日～2019年3月31日



前田 賢吾

(まえだ けんご)

長崎大学 平成30年卒

4月から2年間研修させていただきます。大学生の時に5週間佐世保中央病院で実習させていただき、挨拶が多くてとても明るい病院という印象を受けました。そんな中央病院で働くことができ、光栄です。ご迷惑をかけることもあるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

研修期間：2018年4月1日～2020年3月31日



松瀬 春奈

(まつせ はるな)

長崎大学 平成29年卒

これから1年間研修させていただきます。私自身、佐世保出身ということもあり、佐世保で働くことを本当に楽しみにしております。実際に働いてみると、先生方をはじめ医療スタッフの方々や事務の方々のサポートがとてもあたたかく感じられ、毎日楽しく研修させて頂いております。これから、常に笑顔と感謝の心を忘れず、医療に対して真摯に取り組みたいと思います。至らない点も多いかと思いますがどうぞよろしくお願いいたします。

研修期間：2018年3月12日～2019年3月31日



平 鴻

(たいら ひろし)

佐賀大学 平成29年卒

4月より1年間研修させていただきます。中学、高校の6年間で佐世保に通っており、この度佐世保中央病院で研修できることを大変うれしく思います。去年は大学病院で研修をしており、この1年は市中病院ならではの患者層や医療体系を学んでいきたいと思っています。至らない点も多々あると思いますが1年間よろしくお願いいたします。

研修期間：2018年4月1日～2019年3月31日



松本 学

(まつもと がく)

長崎大学 平成29年卒

4月より1年間研修させていただきます。

佐世保中央病院では、患者さんをはじめとして上級医の先生、同期や後輩、他の医療スタッフの皆さんからもたくさんのご意見を吸収したいと思っています。初心を忘れずに、患者さんの幸せの手助けができるよう努力していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

研修期間：2018年4月1日～2019年3月31日

学会賞等受賞記念学術講演会

2011年末より、その年の学会などにおける研究発表(症例報告を含む)で学会賞などを受賞した場合に、その栄誉を称えらるとともに貴重な研究発表を職員間で共有して学術研究活動を推

進することを目的として開催しています(受賞例が無い年は未開催)。2017年12月には第5回目を開催し、過去7年間で以下の11題の発表が各賞を受賞しました。

開催回 (開催年月日)	学会など賞の名称	発表タイトル 受賞者
第1回 (2011/12/27)	日本医療薬学会 奨励賞	抗MRSA薬の至適投与法の追究 —薬効評価と副作用解析に関する臨床薬物動態研究— 佐世保中央病院 薬剤部 課長 辻 泰弘
	日本糖尿病学会 九州地方会 支部会賞	糖尿病患者における心血管イベントの予知マーカーに関する研究 —接着因子、炎症、インスリン抵抗性を中心に— 佐世保中央病院 糖尿病センター長 松本 一成
第2回 (2012/12/25)	日本臨床細胞学会 秋季大会 新潟賞	ISO15189取得に向けての病理検査室での取り組み 佐世保中央病院 臨床検査技術部 主任 片淵 直
	日本認知症予防学会 学術集会 浦上賞	アルツハイマー型認知症とレビー小体型認知症の早期鑑別 —MMSEにおける3単語遅延再生と五角形描画の乖離— 佐世保中央病院 リハビリテーション部 嶋田 史子
	長崎大学第1内科 関連病院賞	佐世保中央病院糖尿病センターの先進的取り組み 佐世保中央病院 糖尿病センター 松本 一成
第3回 (2014/12/25)	長崎地域 リハビリテーション塾 最優秀発表賞	多職種連携により自宅退院を実現できた 間質性肺炎末期患者の一症例 佐世保中央病院 リハビリテーション部 主任 川上 章子
	MRSAフォーラム 優秀演題賞	バンコマイシンのMIC値がMRSA肺炎の治療効果に 及ぼす影響 佐世保中央病院 薬剤部 岩村 直矢
	日本循環器学会九州地方会 研修医セッション 最優秀賞	逆たこつぼ型の左室収縮異常を呈し、急性循環不全を 伴った褐色細胞腫の1例 佐世保中央病院 研修医 池田 貴裕
第4回 (2016/12/20)	日本認知症予防学会 学術集会 優秀賞(浦上賞)	急性期病院における看護師の認知症対応力向上プログラム 認知症疾患医療センターの取り組み 佐世保中央病院 認知症疾患医療センター 日和田正俊
	日本呼吸器学会・日本結核病 学会・日本サルコイドーシス/ 肉芽腫性疾患学会九州支部 夏季学術講演会 育成賞	淡水溺水に伴う急性呼吸窮迫症候群(ARDS)に 肺サーファクタント補充療法が奏功した一例 佐世保中央病院 研修医 平尾 宣子
第5回 (2017/12/25)	日本内科学会 九州地方会 初期研修医セッション 初期研修医奨励賞	両側肺に多発する結節影を契機に診断されたMTX関 連リンパ増殖性疾患(methotrexate-associated lymphoproliferative disorder;MTX-LPD)の1例 佐世保中央病院 研修医 大和 慎治

学会発表実績

呼吸器内科

学会・研究会

会期	学会名	演題	演者
2017年 5月20日	第317回日本内科学会 九州地方会学術講演会	両側肺に多発する結節影を契機に診断されたMTX 関連リンパ増殖性疾患 (methotrexate-associated lymphoproliferative disorder;MTX-LPD)の1例	大和 慎治 小林 奨
2017年 10月26日	第65回日本化学療法学会	関節リウマチ治療中に発症し治癒までに約3年間の 抗菌化学療法を要した肺ノカルジア症の1例	小林 奨
2018年 1月20日	第320回日本内科学会 九州地方会	脾臓低形成患者における侵襲性肺炎球菌感染症の 1例	吉村 聡志 小林 奨

座長

会期	学会名	演題	演者	座長
2017年 9月29日	第8回 長崎県北部感染症 研究会	当院で経験したSFTS症例	佐世保市総合医療センター 呼吸器内科 吉田 将孝 先生	小林 奨
2017年 11月30日	第14回 長崎県北COPD 研究会	肺癌合併COPD症例に対する 当院での治療経験	佐世保市総合医療センター 呼吸器内科 小河原 大樹 先生	小林 奨

脳神経内科

講演会・セミナー

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2017年 5月26日	協和発酵キリン(株)主催 パーキンソン病治療ワークショップ	①学術講演『パーキンソン病における ノウリアスト錠の有用性について』 ②特別講演『ウェアリングオフ治療に 対する非ドパミン系薬剤の役割』 ③ディスカッション『パーキンソン病の 薬物治療について』 ④クロージングリマークス	①協和発酵キリン(株) パーキンソン病領域専任担当 住川 康二 様 ②福岡大学 医学部 神経内科学 教授 坪井 義夫 先生 ④竹尾 剛
2017年 6月27日	佐世保市薬剤師会学術講演会 —生涯教育認定講座—	パーキンソン病の最近の話題	竹尾 剛
2017年 11月21日	エプシー(株)主催 社内講演会	パーキンソン病治療	竹尾 剛
2017年 11月28日	大塚製薬(株)主催 社内講演	当院におけるパーキンソン治療	竹尾 剛
2017年 12月5日	大日本住友製薬(株) 社内研修会	パーキンソン病 新診療ガイドライン	竹尾 剛

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2018年 1月27日	大日本住友製薬(株)主催 パーキンソン病市民公開講座	①パーキンソン病とおしこの悩み ②飲みこみの障害とリハビリテーション ③パーキンソン病患者さんのお困りごと	①国立病院機構長崎川棚医療センター 副院長 松尾 秀徳 先生 ②佐世保中央病院 リハビリテーション部 言語聴覚士 立木 麻里 認定言語聴覚士 山口めぐみ ③竹尾 剛 佐世保市総合医療センター 神経内科 診療部長 藤本 武士 先生 国立病院機構長崎川棚医療センター 神経内科 成田 智子 先生

リウマチ・膠原病センター

学会・研究会

会 期	学 会 名	演 題	演 者
2017年 4月20～22日	第61回 日本リウマチ学会総会・ 学術集会	当院における関節リウマチBio-switch治療の 使用経験	植木 幸孝
		関節リウマチに対するトファシチニブの3ヶ月での 早期治療効果は1年後の治療効果を予測する	荒牧 俊幸
		長崎県北部における軸性脊椎関節炎の患者背景と 治療の現状	荒牧 俊幸
		長崎県北医療圏におけるRA患者のHTLV-1抗体 陽性患者の頻度と成人T細胞白血病の発症頻度	江口 勝美
		精神神経ループスにおける新規自己抗体 -抗suprabasin抗体の有用性-	一瀬 邦弘
		関節リウマチにおけるトファシチニブ投与の有効性、 安全性の解析および有効性寄与因子の検討 -トファシチニブ至適投与例の探索-	岩本 直樹
2017年 6月17日	第15回 兵庫リウマチチーム 医療研究会	リウマチ治療に対する院内外のチーム医療 -より良い連携を目指して-	植木 幸孝
2017年 7月12日	九州医療介護経営研究会	リウマチ診療におけるチーム医療の構築と 医療連携	植木 幸孝
2017年 7月26日	第42回 熊本リウマチ膠原病 研究会	生物学的製剤治療がリウマチ診療にもたらすもの ～長崎県北地区におけるリウマチ医療連携～	植木 幸孝
2017年 8月25日	県北リウマチネットワーク研究会	当院におけるトシリズマブの有効性と安全性	植木 幸孝
2017年 10月16～20日	19th Asia Pacific League of Associations for Rheumatology Congress	Efficacy and safety at 52 weeks of daily clinical use of tofacitinib in patients with rheumatoid arthritis in clinical practice.	Yoshika Tsuji
2017年 12月2日～3日	第32回 日本臨床リウマチ学会	なぜトファシチニブを使うのか?	植木 幸孝
		全身性エリテマトーデス合併妊娠における 妊婦分娩に与える影響についての検討	一瀬 邦弘

会 期	学 会 名	演 題	演 者
2017年 9月2～3日	第54回 九州リウマチ学会	当院関節リウマチ患者における消化性潰瘍について	荒牧 俊幸
		気管支拡張症を合併する関節リウマチ症例の臨床的検討	来留島章太
		HBV既往感染RA患者を安全に治療するための対策と管理	江口 勝美
2017年 10月14日	日本線維筋痛症学会 第9回学術集会	関節リウマチー生物学的製剤治療時代の疼痛コントロールー	植木 幸孝
2017年 10月27日	第26回 県北リウマチ研究会	当院におけるゴリムマブの有効性と安全性の検討	植木 幸孝
2017年 11月18日	第52回 東三河リウマチ研究会	実臨床におけるトファシチニブの有効性と安全性	植木 幸孝
2018年 3月3～4日	第55回 九州リウマチ学会	当院における関節リウマチBio寛解患者の現状	植木 幸孝
		当院で経験したANCA関連血管炎性中耳炎(OMAAV)の3例	辻 良香
		両側大動脈弓分岐血管閉塞をきたした大血管型巨細胞性動脈炎(LV-GCA)の1例	小島加奈子
		全身性強皮症(Systemic Sclerosis)の臨床的検討	江口 勝美
		関節リウマチ患者のフレイルの現状把握と対策について	植木友理子
		HBV感染関節リウマチ患者を安全に治療するための対策の構築	小川 章子

講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2017年 4月24日	アドバイザー会議	リウマチ膠原病患者に対する疼痛マネージメント 経皮吸収型鎮痛消炎剤の選択	植木 幸孝
2017年 5月13日	福島リウマチ医療連携講演会	長崎県北地区におけるリウマチ医療連携	植木 幸孝
2017年 5月22日	社内勉強会(ファイザー株式会社)	膠原病性肺高血圧症の現状 ～レバチオを中心に～	植木 幸孝
2017年 6月5日	アステラス勉強会	当院の関節リウマチ患者における生物学的製剤の使用経験 ーシムジアのポジショニングを考えるー	植木 幸孝
2017年 6月8日	三重RA連携セミナー	RA治療におけるチーム医療と生物学的製剤のポジショニングについて	植木 幸孝
2017年 6月15日	第1回 ADL&QOL Improvement Seminar	リウマチの医療連携が当院のリウマチ・膠原病センターにもたらしたもの	植木 幸孝
2017年 6月21日	リウマチエリアWEBセミナー	リウマチの治療戦略におけるアバタセプトのポジショニング	植木 幸孝
2017年 7月6日	JAK Academy in 阪神	実臨床におけるトファシチニブの有効性と安全性	植木 幸孝
2017年 7月8日	JAK Academy in 九州	実臨床におけるトファシチニブの有効性と安全性	植木 幸孝
2017年 7月12日	九州医療介護経営研究会	リウマチ診療におけるチーム医療の構築と医療連携	植木 幸孝
2017年 7月13日	RA Total Care Seminar vol.1	リウマチ治療に対する院内外のチーム医療の構築 ーより良い連携を目指してー	植木 幸孝

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2017年 9月1日	九州イグランチモドを語る会	MTX服用困難例に対する イグランチモドの使用経験	植木 幸孝
2017年 9月6日	ノバルティスファーマ社内勉強会	乾癬性関節炎に関する最近の話題 コセンティクスを中心に	植木 幸孝
2017年 9月11日	第20回 長崎市南西部地域医療 協議会	リウマチ膠原病患者に対する消化器疾患マ ネージメント -ポノプラザン錠を中心に-	植木 幸孝
2017年 9月12日	Lupus Erythematosus Expert Meeting in SASEBO	SLEの治療戦略	一瀬 邦弘
2017年 9月16日	リウマチチーム ワークショップ IN奈良	リウマチ治療に対する院内外のチーム 医療	植木 幸孝
2017年 9月22日	佐世保骨粗鬆症フォーラム	当院におけるステロイド性骨粗鬆症に 対するMinodronateの有効性の検討	植木 幸孝
2017年 9月28日	Rheumatoid Arthritis Forum in SASEBO	当院でのRA治療の現状 ～ブラリアへの期待～	植木 幸孝
2017年 10月7日	リウマチチーム ワークショップ IN福岡	リウマチチーム医療に対する 多職種の役割	植木 幸孝
2017年 10月16日	ヤンセン勉強会 in 博多	当院におけるRA生物学的製剤の使用 状況 ～ゴリムマブの位置づけ～	植木 幸孝
2017年 10月26日	佐賀県リウマチイベント	実臨床におけるトファシチニブの 有効性と安全性	植木 幸孝
2017年 10月29日	東海北陸地区リウマチ教育研修会	関節リウマチ診療における チーム医療の役割	植木 幸孝
2017年 11月8日	日医工社内勉強会	生物学的製剤によるリウマチ治療の 現状とバイオシミラーの展望	植木 幸孝
2017年 12月4日	ファイザー株式会社全体会議	関節リウマチ治療の変遷	植木 幸孝
2017年 12月6日	大村東彼薬剤師会講演会	関節リウマチ治療の最前線 薬剤師さんへの期待と地域連携	植木 幸孝

座長

会期	学会名	演題	演者	座長
2017年 6月23日	第3回 リウマチ治療セミナー in SASEBO	リウマチ治療の向上を目指した 医療連携	新潟県立リウマチセンター 名誉院長 村澤 章 先生	植木 幸孝
2017年 7月5日	佐世保中央病院フォーラム	その患者にとって一番良い TNF阻害薬とは	産業医科大学医学部 第一 内科学講座 教授 田中 良哉 先生	江口 勝美
2017年 8月25日	県北リウマチネットワーク 研究会	静岡リウマチネットワー ク10年の歩み	浜松医科大学免疫・リウマチ 内科科長 小川 法良 先生	植木 幸孝
2017年 9月3日	第54回九州リウマチ学会	一般演題9 vasculitis(1)		一瀬 邦弘
2017年 9月12日	Lupus Erythematosus Expert Meeting in SASEBO	SLEの治療戦略	長崎大学大学院医歯薬学総合 研究科先進予防医学講座 リウマチ膠原病内科学分野 講師 一瀬 邦弘	植木 幸孝
2017年 9月28日	Rheumatoid Arthritis Forum in SASEBO	RA炎症鎮静化後の薬物治療と 外科的治療	岡山大学大学院医歯薬学総合 研究科 整形外科学 准教授 西田 圭一郎 先生	江口 勝美

会 期	学 会 名	演 題	演 者	座 長
2017年 12月1日	佐世保中央病院フォーラム	チーム医療から見たリウマチ患者の管理 リハビリの立場から	北海道内科リウマチ科病院 リハビリテーション科 進藤 真衣 先生	植木 幸孝
		チーム医療から見たリウマチ患者の管理 看護師の立場から	北海道内科リウマチ科病院 看護部 開発 正憲 先生	植木 幸孝
		画像を用いたリウマチ診療の実際	北海道内科リウマチ科病院 院長 清水 昌人 先生	植木 幸孝
2018年 3月4日	第55回九州リウマチ学会	TNF阻害薬の進歩	産業医科大学医学部 第一 内科学講座 助教 久保 智史 先生	荒牧 俊幸
		ポスターセッション6 PM/DM, IgG4など		一瀬 邦弘

論文・雑誌掲載

題 名	掲 載 誌	著 者
Risk factors of adverse events during treatment in elderly patients with rheumatoid arthritis: an observational study.	Int J Rheum Dis. 2017 Mar;20(3):346-352.	Iwanaga N, Arima K, <u>Terada K</u> , <u>Ueki Y</u> , Horai Y, Suzuki T, Nakashima Y, Kawashiri SY, <u>Ichinose K</u> , Tamai M, Nakamura H, Aoyagi K, Kawakami A, Origuchi T.
A Japanese familial Mediterranean fever patient with a rare G632S MEFV mutation in exon 10.	Mod Rheumatol. 2017 Mar;27(2):378-379.	<u>Umeda M</u> , Migita K, <u>Ueki Y</u> , Nonaka F, <u>Aramaki T</u> , <u>Terada K</u> , Koga T, <u>Ichinose K</u> , <u>Eguchi K</u> , Kawakami A.
Efficacy and safety at 24 weeks of daily clinical use of tofacitinib in patients with rheumatoid arthritis.	PLoS One. 2017 May 4;12(5):e0177057	<u>Iwamoto N</u> , Tsuji S, Takatani A, Shimizu T, Fukui S, Umeda M, Nishino A, Horai Y, Koga T, Kawashiri SY, <u>Aramaki T</u> , <u>Ichinose K</u> , Hirai Y, Tamai M, Nakamura H, <u>Terada K</u> , Origuchi T, <u>Eguchi K</u> , <u>Ueki Y</u> , Kawakami A.
Anti-citrullinated peptide antibodies are the strongest predictor of clinically relevant radiographic progression in rheumatoid arthritis patients achieving remission or low disease activity: A post hoc analysis of a nationwide cohort in Japan.	PLoS One. 2017 May 15;12(5):e0175281.	Koga T, Okada A, Fukuda T, Hidaka T, Ishii T, <u>Ueki Y</u> , Kodera T, Nakashima M, Takahashi Y, Honda S, Horai Y, Watanabe R, Okuno H, <u>Aramaki T</u> , Izumiyama T, Takai O, Miyashita T, Sato S, Kawashiri SY, <u>Iwamoto N</u> , <u>Ichinose K</u> , Tamai M, Origuchi T, Nakamura H, Aoyagi K, <u>Eguchi K</u> , Kawakami A; Japanese RA Patients with RRP Study Group.
Ultrasound-detected bone erosion is a relapse risk factor after discontinuation of biologic disease-modifying antirheumatic drugs in patients with rheumatoid arthritis whose ultrasound power Doppler synovitis activity and clinical disease activity are well controlled.	Arthritis Res Ther. 2017 May 25;19(1):108.	Kawashiri SY, Fujikawa K, Nishino A, Okada A, <u>Aramaki T</u> , Shimizu T, Umeda M, Fukui S, Suzuki T, Koga T, <u>Iwamoto N</u> , <u>Ichinose K</u> , Tamai M, Mizokami A, Nakamura H, Origuchi T, <u>Ueki Y</u> , Aoyagi K, Maeda T, Kawakami A.

題 名	掲 載 誌	著 者
Comparative risk of hospitalized infection between biological agents in rheumatoid arthritis patients: A multicenter retrospective cohort study in Japan.	PLoS One. 2017 Jun 8;12(6):e0179179.	Mori S, Yoshitama T, Hidaka T, Sakai F, Hasegawa M, Hashiba Y, Suematsu E, Tatsukawa H, Mizokami A, Yoshizawa S, Hirakata N, <u>Ueki Y.</u>
A novel scoring system based on common laboratory tests predicts the efficacy of TNF-inhibitor and IL-6 targeted therapy in patients with rheumatoid arthritis: a retrospective, multicenter observational study	Arthritis Res Ther. 2017 Aug 11;19(1):185.	Nakagawa J, Koyama Y, Kawakami A, <u>Ueki Y.</u> Tsukamoto H, Horiuchi T, Nagano S, Uchino A, Ota T, Akahoshi M, Akashi K.
Synovitis of sternoclavicular and peripheral joints can be detected by ultrasound in patients with SAPHO syndrome.	Mod Rheumatol. 2017 Sep;27(5):881-885.	Umeda M, Kawashiri SY, Nishino A, Koga T, <u>Ichinose K.</u> Michitsuji T, Shimizu T, Fukui S, Nakashima Y, Hirai Y, <u>Iwamoto N.</u> <u>Aramaki T.</u> Tamai M, Nakamura H, Origuchi T, <u>Ueki Y.</u> Kawakami A.
Effects of HLA-DRB1 alleles on susceptibility and clinical manifestations in Japanese patients with adult onset Still's disease.	Arthritis Res Ther. 2017 Sep 12;19(1):199.	Asano T, Furukawa H, Sato S, Yashiro M, Kobayashi H, Watanabe H, Suzuki E, Ito T, Ubara Y, Kobayashi D, Iwanaga N, Izumi Y, Fujikawa K, Yamasaki S, Nakamura T, Koga T, Shimizu T, Umeda M, Nonaka F, Yasunami M, <u>Ueki Y.</u> <u>Eguchi K.</u> Tsuchiya N, Tohma S, Yoshiura KI, Ohira H, Kawakami A, Migita K.
Comparison of serum inflammatory cytokine concentrations in familial Mediterranean fever and rheumatoid arthritis patients.	Scand J Rheumatol. 2017 Sep 2:1-3.	Koga T, Kawashiri SY, Migita K, Sato S, Umeda M, Fukui S, Nishino A, Nonaka F, <u>Iwamoto N.</u> <u>Ichinose K.</u> Tamai M, Nakamura H, Origuchi T, <u>Ueki Y.</u> Masumoto J, Agematsu K, Yachie A, <u>Eguchi K.</u> Kawakami A.
Baseline MRI bone erosion predicts the subsequent radiographic progression in early rheumatoid arthritis patients who achieved sustained good clinical response.	Mod Rheumatol.2017 Nov;27(6):961-966.	Tamai M, Arima K, Nakashima Y, Kita J, Umeda M, Fukui S, Nishino A, Suzuki T, Horai Y, Okada A, Koga T, Kawashiri SY, <u>Iwamoto N.</u> <u>Ichinose K.</u> Yamasaki S, Nakamura H, Origuchi T, Aoyagi K, Uetani M, <u>Eguchi K.</u> Kawakami A.
Tocilizmab is effective in a familial Mediterranean fever patient complicated with histologically proven recurrent fasciitis and myositis.	Int J Rheum Dis.2017 Nov;20(11):1868-1871.	Umeda M, <u>Aramaki T.</u> Fujikawa K, <u>Iwamoto N.</u> <u>Ichinose K.</u> <u>Terada K.</u> Takeo G, Yonemitsu N, <u>Ueki Y.</u> Migita K, Kawakami A.

題 名	掲 載 誌	著 者
Prevalence of and factors associated with renal dysfunction in rheumatoid arthritis patients: a cross-sectional study in community hospitals.	Clin Rheumatol.2017 Dec;36(12):2673-2682.	Mori S, Yoshitama T, <u>Hirakata N</u> , <u>Ueki Y</u> .
MicroRNA-204-3p inhibits lipopolysaccharide-induced cytokines in familial Mediterranean fever via the phosphoinositide 3-kinase γ pathway.	Rheumatology(Oxford). 2017 Dec 25.	Koga T, Migita K, Sato T, Sato S, Umeda M, Nonaka F, Fukui S, Kawashiri SY, <u>Iwamoto N</u> , <u>Ichinose K</u> , Tamai M, Nakamura H, Origuchi T, <u>Ueki Y</u> , Masumoto J, Agematsu K, Yachie A, Yoshiura KI, <u>Eguchi K</u> , Kawakami A.
後腹膜線維症、両側難治性中耳炎をきたしたMPO-ANCA陽性肥厚性硬膜炎の1例	神経内科 87(2):205-209,2017	福本 尚子 藤本 武士 山田 寛子 <u>江口 勝美</u>
長崎県における脊椎関節炎の診断と臨床的特徴	九州リウマチ 第37巻(2) 89~95,2017	荒牧 俊幸 辻 創介 寺田 馨 <u>江口 勝美</u> 植木 幸孝 遠藤友志郎 藤川 敬太 溝上 明成 鈴木 貴久 岡田 覚丈 梅田 雅孝 古賀 智裕 岩本 直樹 一瀬 邦弘 川上 純
Hepatitis B virus reactivation in patients with rheumatoid arthritis : a single-center study.	Mod Rheumatol. 2018 Jan 22:1-6.	Matsuzaki T, <u>Eguchi K</u> , Nagao N, Tsuji S, <u>Aramaki T</u> , <u>Terada K</u> , Iwatsu S, Tokimura I, Kamo Y, Oda H, Kinoshita N, Miyaaki H, Taura N, Ichikawa T, Kawakami A, Nakao K, <u>Ueki Y</u> .
CD4+ CD52lo T-cell expression contributes to the development of systemic lupus erythematosus.	Clin Immunol.2018 Feb; 187:50-57.	Umeda M, Koga T, <u>Ichinose K</u> , Igawa T, Sato T, Takatani A, Shimizu T, Fukui S, Nishino A, Horai Y, Hirai Y, Kawashiri SY, <u>Iwamoto N</u> , <u>Aramaki T</u> , Tamai M, Nakamura H, Yamamoto K, Abiru N, Origuchi T, <u>Ueki Y</u> , Kawakami A.
Attenuated effectiveness of tumor necrosis factor inhibitors for anti-human T-lymphotropic virus type 1 antibody-positive rheumatoid arthritis.	Arthritis Rheumatol. 2018 Feb 22.	Suzuki T, Fukui S, Umekita K, Miyamoto J, Umeda M, Nishino A, Okada A, Koga T, Kawashiri SY, <u>Iwamoto N</u> , <u>Ichinose K</u> , Tamai M, Fujikawa K, <u>Aramaki T</u> , Mizokami A, Matsuoka N, <u>Ueki Y</u> , <u>Eguchi K</u> , Sato S, Hidaka T, Origuchi T, Okayama A, Kawakami A, Nakamura H.
Ultrasonographic efficacy of biologic and targeted synthetic DMARDs therapy in RA from multicenter RA ultrasound prospective cohort in Japan.	Arthritis Care Res (Hoboken). 2018 Feb 26.	Nishino A, Kawashiri SY, Koga T, <u>Iwamoto N</u> , <u>Ichinose K</u> , Tamai M, Nakamura H, Origuchi T, <u>Ueki Y</u> , Yoshitama T, Eiraku N, Matsuoka N, Okada A, Fujikawa K, Hamada H, Tsuru T, Nagano S, Arinobu Y, Hidaka T, Kawakami A.
Tofacitinib Therapy for Rheumatoid Arthritis: A Direct Comparison Study between Biologic-naïve and Experienced Patients	Intern Med.2018 Mar 1;57(5):663-670	Mori S, Yoshitama T, <u>Ueki Y</u> .

題 名	掲 載 誌	著 者
巨細胞性動脈炎(cranial型とlarge-vessel型)の疾患概念と新たな治療	九州リウマチ 第38巻(1) 8~15,2018	江口 勝美 寺田 馨 荒牧 俊幸 植木 幸孝
HBV既往感染関節リウマチ患者を安全に治療するための対策と課題	九州リウマチ 第38巻(1) 22~29,2018	江口 勝美 荒牧 俊幸 寺田 馨 辻 良香 來留島章太 小島加奈子 松崎 寿久 藤川 敬太 溝上 明成 岩本 直樹 一瀬 邦弘 川上 純 植木 幸孝
関節リウマチ	日本内科学会雑誌 第106巻 第10号 2017年10月	植木 幸孝 荒牧 俊幸 辻 良香 來留島章太 小島加奈子 川内奈津美 寺田 馨 江口 勝美
成人発症スティル病の遺伝的要因の検討	日本内科学会雑誌 第107巻 臨時増刊号 2018年2月	浅野 智之 古川 宏 屋代 牧子 佐藤 秀三 小林 浩子 渡辺 浩志 古賀 智裕 江口 勝美
来賓祝辞	SSK 流会報ながさき 47号	江口 勝美
質疑応答		
身近な病気のおはなし① 関節リウマチのご存知ですか?	ライフさせぼ 2017年7月14日 No.1916 NINETY NINE VIEW 2017年7月 Vol.333	植木 幸孝
身近な病気のおはなし② 関節リウマチのご存知ですか?	NINETY NINE VIEW 2017年8月 Vol.334	植木 幸孝
リウマチ膠原病は不治の病から治る病気に	西日本新聞 2018年3月16日	江口 勝美

糖尿病センター

学会・研究会

会 期	学 会 名	演 題	演 者
2017年 5月18日~20日	第60回 日本糖尿病学会 年次学術集会	SGLT2阻害薬では治療満足度は上昇するが、 食事・運動療法への自信は高まらない	松本 一成
		NIPPON DATAを用いた冠動脈疾患と脳卒中に よる10年以内死亡リスク評価と動脈硬化危険因子 の管理目標達成率について	徳満 純一
2017年 10月13日~14日	第55回 日本糖尿病学会 九州地方会	SGLT2阻害薬が効き難い患者の心理状況とは?	松本 一成
		当院における病棟血糖管理の実態調査	明島 淳也
		NIPPON DATAを用いた心血管疾患、 冠動脈疾患の10年以内死亡リスク評価	徳満 淳一

講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2017年 4月1日	埼玉生活習慣病医療研究会	患者さんのやる気を引き出す対話法 —糖尿病コーチング—	松本 一成
2017年 4月9日	Diabetes Coaching Care Forum	インスリン治療を継続するための対話 ~糖尿病コーチング 4つのタイプ分け~	松本 一成

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2017年 4月21日	舟橋の糖尿病治療を考える会	患者さんが糖尿病治療を受け入れやすくなる対話術	松本 一成
2017年 4月26日	山口市糖尿病治療を考える会	注射による糖尿病治療 ～導入の際の対話～	松本 一成
2017年 5月12日	インスリンスキルアップセミナー インスリン治療における 患者コミュニケーションを考える	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話 ～糖尿病コーチング～	松本 一成
2017年 6月10日	糖尿病診療コーチング 研究会 in Nagoya	患者さんのやる気を引き出す対話法 ～糖尿病コーチング～	松本 一成
2017年 6月11日	城南地区 糖尿病スキルアップセミナー	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話 ～糖尿病コーチング～	松本 一成
2017年 6月17日	第58回 日本心身医学会総会 ならびに学術講演会	糖尿病臨床へのコーチングの応用 ～スタッフが変わる、患者さんも変わる～	松本 一成
2017年 6月23日	第3回 奄美透析セミナー	コーチングを利用した 糖尿病栄養看護外来	松本 一成
2017年 7月1日	糖尿病コーチングセミナー	糖尿病コーチング ～タイプ分けを知ればうまくいく～	松本 一成
2017年 7月7日	糖尿病ケアサポートチーム(DST)	患者さんのやる気を引き出す話法 ～糖尿病コーチング～	松本 一成
2017年 7月18日	第5回 糖尿病栄養療法勉強会	Weekly DPP4阻害薬の臨床効果と 適正患者数	明島 淳也
2017年 8月2日	インスリン治療を考えるフォーラム in Fukuoka	注射による糖尿病治療～導入の際の 対話～	松本 一成
2017年 8月4日	糖尿病治療学術講演会 日本イーライリリー	患者さんのやる気を引き出す対話法 ～糖尿病コーチング～	松本 一成
2017年 8月5日	医療連携のための総合企画 糖尿病セミナー	患者さんの自覚を促す教育入院に向けて 「コーチング理論にもとづいた糖尿病療 養指導」	松本 一成
2017年 8月20日	第22回 実地医家のための糖尿病 セミナー in 筑後	インスリン治療とコーチング	松本 一成
2017年 8月25日	もう迷わないインスリン治療の会	周術期の血糖検査とコントロール方法	松本 一成
2017年 8月26日	糖尿病療養指導講演会	患者さんのやる気を引き出す対話法 ～糖尿病コーチング～	松本 一成
2017年 9月5日	大村地区 周術期血糖コントロールを 考える会	周術期の血糖コントロール ～理論と実践～	松本 一成
2017年 9月6日	糖尿病と肝臓フォーラム in 佐世保 大正富山	患者さんのやる気を引き出す対話法 ～糖尿病コーチング～	松本 一成
2017年 9月9日	第5回 糖尿病を考える会 in 名張	患者さんのやる気を引き出す対話法 ～糖尿病コーチング～	松本 一成
2017年 9月12日	第34回 糖尿病診療を考える会	やる気を引き出す質問	松本 一成
2017年 9月15日	Diabetes Seminar in 倉敷 ～糖尿病指導について考える～	患者さんのやる気を引き出す対話 ～糖尿病コーチング～	松本 一成
2017年 9月22日	すぐに役立つ糖尿病実践セミナー	糖尿病医療コーチング	松本 一成
2017年 9月29日	第7回 尾道糖尿病セミナー	糖尿病コーチング ～タイプ分けを知ればうまくいく～	松本 一成
2017年 10月6日	熊本県医療法人協会薬局長会研修会	患者さんのやる気を引き出す対話 ～糖尿病コーチング～	松本 一成
2017年 10月27日	糖尿病臨床コーチングセミナー	患者さんのやる気を引き出す対話法	松本 一成

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2017年 10月28日	第28回 糖尿病チーム医療を考える会	Patient Centered Approach を実現するためにー糖尿病コーチングー	松本 一成
2017年 11月4日	患者さんがインスリン治療を続けるためのワークショップ 日本イーライリリー	患者さんのやる気を引き出す対話法ー糖尿病コーチングー	松本 一成
2017年 11月7日	ノボノルディスクファーマ サテライトダイアログ開催	適切な時期にインスリン治療を開始してもらうために ～動機づけ面接法を用いた対話～	松本 一成
2018年 11月11日	第29回 糖尿病チーム医療を考える会	行動療法を知ると糖尿病治療が上手くなる	松本 一成
2017年 11月14日	糖尿病・肥満治療セミナー 小野薬品工業	患者さんのやる気を引き出す対話法ー糖尿病コーチングー	松本 一成
2017年 11月15日	田辺三菱製薬株式会社社内勉強会	当院におけるカナグリフロジンの使用経験とオーダーメイド処方の必要性	徳満 純一
2017年 11月18日	第5回 和歌山県臨床コーチング研究会	糖尿病コーチングータイプ分けを知ればうまくいくー	松本 一成
2017年 11月24日	第2回 糖尿病セミナー	糖尿病患者に対する生活指導の重要性ー患者の心理と行動を診るー	松本 一成
2017年 11月25日	手稲地区医療スタッフ糖尿病研究会	患者さんのやる気を引き出す対話法ー糖尿病コーチングー	松本 一成
2017年 11月29日	平戸市医師会学術講演会	糖尿病患者との医療面接のコツーコーチングと栄養看護外来ー	松本 一成
2017年 12月1日	中部地区医師会糖尿医療ネットワーク研究会 武田薬品	患者さんのやる気を引き出す対話法ー糖尿病コーチングー	松本 一成
2018年 3月2日～3日	第52回 糖尿病学の進歩	糖尿病診療におけるコーチングの有用性	松本 一成
2018年 3月9日	肝臓・糖尿病学術講演会	Patient Centered Approach を実践するためにー糖尿病コーチングー	松本 一成
2018年 3月16日	糖尿病治療を考える会	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話法ー糖尿病コーチングー	松本 一成

消化器内視鏡センター

学会・研究会

会期	学会名	演題	演者
2017年 9月27日	日本胆道学会総会	門脈腫瘍栓を伴った脾NETの一例	柴田 雅士
2017年 11月17日～18日	日本消化器病学会九州支部例会	腸重積を契機に発見された小腸悪性リンパ腫の一例	市川 宏美
		胃全摘後急性輸入脚症候群に対して内視鏡的ドレナージが有効であった一例	柴田 雅士
2018年 3月24日	長崎胆膵研究会	急性胆嚢炎～Surgical high risk症例に対するEGBSの有用性の検討～	加茂 泰広

講演会・セミナー

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2017年 7月12日	あすか製薬(株)社内研修会	ミニマル肝性脳症について	吉村 映美
2017年 9月26日	EAファーマ(株)社内勉強会	最新のPPIの使い方	木下 昇

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2017年 12月20日	abbvie社外講師勉強会	C型肝炎治療のこれまでとこれから ～自院治療経験を踏まえて～	加茂 泰広
2018年 2月15日	大鵬薬品社外講師勉強会	切除不能進行膵臓癌に対する化学療法 ～GEM+nab-PTX療法を中心に～	加茂 泰広

座長

会 期	学会・講演会名	演 題	演 者	座 長
2017年 5月17日	Expert Meeting in SASEBO	DAA治療後の問題 -高LDL血症と肝発癌-	長崎医療センター 臨床研究セン ター長 八橋 弘 先生 他	木下 昇
2017年 7月6日	第54回県北肝臓研究会	肝硬変のトータルマネジメントに ついて	長崎みなとメディカルセンター 消化器内科 主任診療部長 市川 辰樹 先生	木下 昇
2017年 7月6日	肝臓とかゆみ講演会	脂質異常症や糖尿病に潜む 非アルコール性脂肪肝炎を 見落とさないために	佐賀大学医学部肝疾患セン ター 特任教授・センター長 江口 有一郎 先生	木下 昇
2017年 7月25日	佐世保中央病院フォーラム	潰瘍性大腸炎のUp to Date	長崎大学医歯薬学総合研究科 消化器内科学 准教授 竹島 史直 先生	小田 英俊
2017年 9月13日	長崎県北肝炎を考える会	ウイルス性肝疾患up-to-date	国立病院機構長崎医療センター 臨床研究センター 肝炎治療 研究室長 長岡 進矢 先生	木下 昇
2017年 10月23日	県北臨床内科医会	便通異常治療の最新アプローチ	医療法人ロココメディカル江口病院 副院長 岩切 龍一 先生	小田 英俊

循環器内科

学会・研究会

会 期	学 会 名	演 題	演 者
2017年 5月20日	日本内科学会 第317回九州地方会	「完全房室ブロックに対する一時ペーシング挿入 直後に急性肺水腫を来した不安定狭心症の一例」	○落合 朋子 吉村 聡志 中尾功二郎 木崎 嘉久
2017年 6月10日	米国内科学会 日本支部 年次総会2017	「Hypertensive crisis due to nonionic low osmolar contrast medium during coronary angiography in a patient with pheochromocytoma」(ポスター発表)	吉村 聡志
2017年 7月6日	第26回日本心血管インターベン ション治療学会学術集会 2017	「特発性冠動脈解離の患者にカテーテルによる 医原性冠動脈解離を生じた一例」	吉村 聡志
2017年 9月8日	第25回日本心血管インターベン ション治療学会 九州・沖縄地方会	「急性下壁心筋梗塞治療後に心破裂をきたし、 心嚢ドレナージのみで救命しえた一例」	○落合 朋子 吉村 聡志 中尾功二郎 木崎 嘉久
2017年 9月8日	第25回日本心血管インターベン ション治療学会 九州・沖縄地方会	「うっ血性心不全を呈したAVR後の医原性VSDを 左室造影と肺動脈造影で局在診断した一例」	○吉村 聡志 落合 朋子 中尾功二郎 木崎 嘉久 心臓血管外科 中路 俊 谷口真一郎

会 期	学 会 名	演 題	演 者
2017年 9月29日	第65回日本心臓病学会学術集会	「非イオン性低浸透圧性造影剤での冠動脈造影により高血圧発作とカテコラミン誘発性心筋症が誘発された褐色細胞腫クリーゼの一例」	○吉村 聡志 長崎大学病院 循環器内科 中田 智夫 先生 片山 敏郎 先生 池田 聡司 先生 小出 優史 先生 河野 浩章 先生 前村 浩二 先生
2017年 11月23日	ARIA2017	症例検討	落合 朋子
2017年 12月2日	第123回日本循環器学会 九州地方会	「救急外来のPitfall:Wellens症候群との鑑別を要したStanford A型大動脈解離の一例」	○吉村聡志 落合 朋子 中尾功二郎 木崎 嘉久 心臓血管外科 谷口真一郎
2018年 1月20日	日本内科学会 第320回九州地方会	「脾臓低形成患者における侵襲性肺炎球菌感染症の一例」	○吉村 聡志 落合 朋子 中尾功二郎 木崎 嘉久 呼吸器内科 小林 奨 病理部 米満 伸久 長崎大学病院 病理診断科 尹 漢勝 先生

講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2017年 5月19日	脂質治療フォーラム	「冠動脈多枝病変を有する高LDL-C患者にPCSK-9阻害薬を導入した症例—当院初導入におけるDilemma—」	吉村 聡志
2017年 7月3日	県北循環器連携パスミーティング	「心不全患者の地域連携について」	木崎 嘉久
2017年 7月29日	第39回九州虚血性心疾患研究会	「NC ballonで拡張困難な高度石灰化病変に対しスコアリングバルーンが有効であった1例」	落合 朋子
2017年 8月1日	㈲(株) Ultimaster講演会	症例提示	落合 朋子
2017年 8月21日	社内勉強会講演	「当院における心不全治療」	吉村 聡志
2017年 10月20日	生理検査スキルアップセミナー 認定心電検査技師資格更新研修会	研修会講師	中尾功二郎
2017年 10月24日	高尿酸血症勉強会 in 佐世保	「高尿酸血症を考える」	木崎 嘉久
2017年 12月6日	県北循環器連携パス学術講演会	「心不全への連携」	木崎 嘉久
2017年 12月8日	佐世保市薬剤師会学術講演会	「心房細動の治療」	中尾功二郎
2018年 1月18日	第203回経過報告会	「リードレスペースメーカ」	中尾功二郎

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2018年 2月5日	県北循環器連携パスミーティング	「地域で取り組む心不全への対応(仮)」	木崎 嘉久

座長

会 期	学会・講演会名	演 題	演 者	座 長
2017年 4月20日	第195回経過報告会	「糖尿病患者の生活習慣と体重、HbA1cの関連」「糖尿病患者を透析患者にしない方法」	栄養管理部 課長 貴島左知子 糖尿病センター長 松本 一成	木崎 嘉久
2017年 5月19日	脂質治療フォーラム	「冠動脈多枝病変を有する高LDL-C患者にPCSK-9阻害薬を導入した症例-当院初導入におけるDilemma-」 「虚血性心疾患二次予防におけるdual lipid - lowering strategyの意義 -当院でのPCSK9阻害薬専門導入外来の役割と展望-」	循環器内科 吉村 聡志 済生会熊本病院 循環器内科部長 坂本 知浩 先生	木崎 嘉久
2017年 6月2日	第16回県北メタボリック シンドローム研究会	「人間ドック受診者の推定塩分摂取量の現状と生活習慣病との関連の検討」 「一歩先をいく高血圧治療～夜間血圧変動もターゲットに～」	健康増進センター 川内奈津美 一般社団法人遠賀中間医師会 おんが病院 循環器内科部長 吉田 哲郎 先生	木崎 嘉久
2017年 6月16日	第10回県北周術期管理 懇話会	「心拍数コントロールに極めて難渋した黄色ブドウ球菌による敗血症の1例」	長崎労災病院 救急科部長 救急集中治療科部長 中村 利秋 先生	木崎 嘉久
2017年 8月1日	テルモ(株) Ultimaster講演会	「Latest Optimal DAPT Duration Expectation for the Bioabsorbable Polymer DES Ultimaster」	福岡山王病院 横井 宏佳 先生	木崎 嘉久
2017年 10月19日	第200回経過報告会	「リハビリテーション部の在宅支援への取り組み」	リハビリテーション部 山口めぐみ	木崎 嘉久
2017年 10月26日	Vascular IVR Joint Meeting	「ASOに対する血管内治療」	佐世保市総合医療センター 循環器内科 部長 松本 雄二 先生	木崎 嘉久
2017年 11月8日	長崎 Imaging And Physiology	「Clinical and research utility of optical coherence tomography」	神戸大学大学院医学研究科 内科学講座 循環器内科学分野 准教授 新家 敏郎 先生	木崎 嘉久
2017年 11月28日	佐世保中央病院フォーラム	「失神の診かた、捉え方、治療の仕方」	産業医科大学医学部 不整脈先端治療学 教授 安部 治彦 先生	中尾功二郎
2018年 3月26日	Cardiovascular diseases forum in 佐世保	「左室拡張障害による心不全の評価」	佐世保市総合医療センター循環器内科 管理診療部長兼診療科長 波多 史朗 先生	木崎 嘉久

論文

日付	掲 載	論 文 名	著 者
2017年 4月20日	Circulation Journal	Superior Rhythm Discrimination With the SmartShock Technology Algorithm - Results of the Implantable Defibrillator With Enhanced Features and Settings for Reduction of Inaccurate Detection (DEFENSE) Trial -	Yasushi Oginosawa,MD,PhD; Ritsuko Kohno,MD,PhD; Toshihiro Honda,MD; Kan Kikuchi,MD,PhD; Masatsugu Nozoe,MD,PhD; Takayuki Uchida,MD; Hitodhi Minamiguchi,MD; Koichiro Sonoda,MD,PhD; Masahiro Ogawa,MD,PhD; Takeshi Idegushi,MD; <u>Yoshihisa Kizaki,MD</u> ; Toshihiro Nakamura,MD; Kageyuki Oba,MD; Satoshi Higa,MD,PhD; Keiki Yoshida,MD,PhD; Soichi Tsunoda; Yoshihisa Fujino,MD,PhD; Haruhiko Abe,MD,PhD

症例検討会・世話人会

会 期	検討会・世話人会	内 容
2017年 7月25日	症例検討会	第75回県北ハートカンファランス
2017年 10月17日	症例検討会	第76回県北ハートカンファランス
2018年 3月5日	症例検討会	第77回県北ハートカンファランス
2017年 5月17日	世話人会	第52回県北臨床循環器懇話会世話人会
2017年 6月2日	世話人会	県北メタボリックシンドローム研究会世話人会
2017年 7月3日	世話人会	第10回県北循環器連携パス世話人会
2017年 11月9日	世話人会	第53回県北臨床循環器懇話会世話人会
2017年 11月22日	世話人会	第8回長崎県北肺高血圧症研究会世話人会
2018年 2月5日	世話人会	第11回県北循環器連携パス世話人会
2018年 2月23日	世話人会	県北メタボリックシンドローム研究会世話人会

外科

学会・研究会

会期	学会名	演題	演者
2017年 5月26日~27日	第54回九州外科学会	腎摘後9年目に孤立性肺転移を発症した腎細胞癌の1例	丸山圭三郎
2017年 11月23日~25日	第79回日本臨床外科学会総会	Upside down stomach を呈した食道裂孔ヘルニアの1例	丸山圭三郎

整形外科

講演会・セミナー

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2017年 7月22日	長崎運動器系疾患研究会	肩の保存治療の注意点と最新治療について	北原 博之
2017年 12月21日	経過報告会	高齢者に多い橈骨遠位端骨折について	宮原 健次

脳神経外科・脳血管内科

学会・研究会

会期	学会名	演題	演者
2017年 2月21日	第61回 佐世保脳外科医会	下垂体腺腫術後に生じたトルコ鞍内血腫(鞍底硬膜下血腫)の1例	河野 大
2017年 2月28日	第127回県北神経懇話会	蝶形骨翼硬膜動静脈瘻の1例	堀尾 欣伸
2017年 3月11日	第125回日本脳神経外科学会九州支部会	下垂体腺腫術後に生じたトルコ鞍内血腫(鞍底硬膜下血腫)の1例	河野 大
2017年 4月21日	第62回佐世保脳外医会	頭痛で発症したIgG4関連眼疾患の1例	古賀 嵩久
2017年 6月17日	第120回日本脳神経外科学会九州地方会	CEA術後に生じたICA kinking stenosis に対しステント留置術を施行した1例	古賀 嵩久
2017年 8月23日	Trombosis Update in Sasebo	当院でのTrousseau症候群の治療経験	竹本光一郎
2017年 10月12日	第76回日本脳神経外科学会総会	CEA術後にkinking stenosisをきたした2例	堀尾 欣伸
2017年 10月21日	第127回日本脳神経外科学会九州地方会	自然血栓化を認めたもやもや病関連末梢動脈瘤の1例	古賀 嵩久
2017年 11月21日	佐世保脳外科医会	診断に2度血管撮影を要した仙骨部硬膜動静脈瘻の1例	竹本光一郎
2017年 11月23日	第33回日本脳神経血管内治療学会学術総会	CAS後にくも膜下出血を発症し過還流症候群か脳動脈瘤破裂か苦慮した1例	佐原 範之
2017年 12月15日	佐世保南ロータリークラブ卓話の会	脳卒中診療における最近の進歩	竹本光一郎
2018年 1月13日	第27回日本脳神経血管内治療学会九州地方会	診断に苦慮した仙骨部硬膜外動静脈瘻の1例	堀尾 欣伸

論文

日付	掲 載	論 文 名	著 者
—	Neuro sonology: 神経超音波医学 130巻(2017)3号	頸部回旋により鎖骨下動脈盗血症候群を呈した高度鎖骨下動脈狭窄症の1例	堀尾 欣伸 竹本光一郎 古賀 嵩久 河野 大 保田 宗紀 佐原 範之 高木 勇人 嶋田 裕史 阪元政三郎 井上 亨

心臓血管外科

学会・研究会

会 期	学 会 名	演 題	演 者
2017年 8月26日	第110回日本血管外科学会 九州地方会	上行大動脈人工血管置換術後の慢性大動脈解離に対してAMPLATZER vascular plugⅡにてエントリー閉鎖を行った1例	谷口真一郎
2017年 9月29日	第70回日本胸部外科学会定期 学術集会	良好なりモデリングを得るための B型大動脈解離へのTEVAR介入時期の検討	中路 俊
2018年 1月24日	第32回心臓血管外科ウインター セミナー学術集会	高位側壁枝病変による急性心筋梗塞に合併した 前外側乳頭筋断裂に対する治療経験	中路 俊

講演会・セミナー・世話人

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2017年 7月1日	血管病治療の最前線	佐世保中央病院の血管病治療	中路 俊
2017年 11月9日	世話人	第53回県北臨床循環器懇話会世話人会	谷口真一郎
2018年 2月20日	伊万里有田共立病院 ランチョンセミナー	解離性大動脈瘤の分類と治療	中路 俊
2018年 3月1日	伊万里有田共立病院 ランチョンセミナー	弁膜症の診断と治療 ～大動脈弁と僧帽弁を中心に～	谷口真一郎

座長

会 期	講演会・セミナー名	演 題	演 者	座 長
2017年 5月17日	第52回県北臨床循環器 懇話会	大動脈解離の診断と治療 ～血圧管理から手術まで～	福岡大学医学部 心臓血管外科 教授 和田 秀一 先生	谷口真一郎
2017年 7月1日	血管病治療の最前線	血管病治療の栄枯盛衰	東京慈恵会医科大学附属 病院 血管外科 教授 大木 隆生 先生	谷口真一郎
2017年 10月26日	Vascular IVR Joint Meeting	動脈瘤の血管内治療	長崎大学大学院医歯薬学研究科 放射線診断治療学 准教授 坂本 一郎 先生	谷口真一郎

小児科

学会・研究会

会期	学会名	演題	演者
2017年 4月23日	第201回日本小児科学会 長崎地方会	佐世保市小児生活習慣病検診の運用と 効果についての後方視的検討	山田 克彦
2017年 4月23日	第201回日本小児科学会 長崎地方会	脳波異常を伴い、カルバマゼピンが奏功した 周期性嘔吐症候群の5歳女児	犬塚 幹
2017年 5月11日	14th Asian and Oceanian Congress of Child Neurology	Treatment of juvenile myoclonic epilepsy and assessment of patient's background	犬塚 幹
2017年 6月8日	第125回長崎県北小児科医会 学術講演会	当科における小児生活習慣病地域連携パスの工夫 ～佐世保市小児生活習慣病検診との関係～	山田 克彦
2017年 6月15日	第59回日本小児神経学会 学術集会	繰り返す熱性けいれんと無熱性けいれんに対し レベチラセタムが有効であった3例	犬塚 幹
2017年 7月15日	第12回日本臨床コーチング 研究会	小児肥満症の行動療法におけるコーチングの経験	山田 克彦
2017年 11月9日	長崎県北小児科医会症例 検討会	失神精査で診断された遺伝性肺動脈性肺高血圧症 の一例	山田 克彦
2017年 12月17日	第203回日本小児科学会 長崎地方会	トレッドミル試験で診断に至った無症候性重症 不整脈の2例	山田 克彦

講演会・セミナー

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2017年 8月23日	佐世保市学校保健会 養護教諭部会研修会	成長曲線の活用でわかること	山田 克彦
2017年 8月30日	長崎県立ろう学校佐世保分校 平成29年度外部専門家活用研修会	小児肥満を見逃してはいけない理由	山田 克彦
2017年 11月14日	平成29年度学校保健総合支援事業・学 校における現代的な健康課題解決支援 事業講演会(佐世保市立黒髪小学校)	小学生から始める生活習慣病対策～早寝・早起き・朝 ごはん!～	山田 克彦
2017年 11月16日	平成29年度学校保健総合支援事業・ 学校における現代的な健康課題解決支 援事業講演会(波佐見町立南小学校)	早寝・早起き・朝ごはん	犬塚 幹
2017年 12月8日	平成29年度学校保健総合支援事業・ 学校における現代的な健康課題解決支 援事業講演会(西海市立雪浦小学校)	小学生から始める生活習慣病対策 ～早寝・早起き・朝ごはん!～	山田 克彦
2017年 12月15日	平成29年度長崎県特別支援学校 養護教諭研修会冬季研修会講話	成長曲線と肥満度曲線でわかること、できること	山田 克彦
2018年 2月23日	てんかん診療セミナーin県北	当科におけるペランパネルが奏功したてんかんの 1例	犬塚 幹
2018年 3月7日	佐世保ロータリークラブ例会卓話	小児肥満症～小児科外来から覗く社会の縮図～	山田 克彦
2018年 3月25日	パープルデーながさき 2018	長崎てんかんグループの一員として参加し、 患者個別相談を担当	犬塚 幹

座長

会期	講演会・セミナー名	演題	演者	座長
2017年 12月14日	第126回長崎県北小児科 医会学術講演会	CHARGE症候群の1例について	宮副 祥一 先生	山田 克彦
2017年 12月14日	第126回長崎県北小児科 医会学術講演会	感染症予防、アレルギー対策、発 達障害児支援等が、元気な子ども を育む地域を構築する	是松 聖悟 先生	山田 克彦

会期	講演会・セミナー名	演題	演者	座長
2018年 2月8日	第127回長崎県東北小児科 医会学術講演会	小児の集中治療に必要な新しいデ バイス・手技・実際の症例を通して-	大坪 善数 先生	山田 克彦

耳鼻咽喉科

講演会・セミナー

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2018年 2月25日	第21回耳の日公開講座&相談会	音の伝わり方と難聴の種類	大里 康雄

放射線科

学会・研究会

会期	学会名	演題	演者
2017年 7月22日	第30回九州・山口ハイパーサーミア 研究会	切除不能肺癌に対する温熱化学療法 -JPS第7版による再検討	平尾 幸一
2017年 10月16日	第40回九州IVR研究会	偶然発見された左肺底動脈大動脈起始症に対して 塞栓術を施行した1例	堀上 謙作

講演会・セミナー

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2017年 6月3日	第5回九州CTCTレーニングカンファランス	当院の術前CTCについて	堀上 謙作
2017年 10月26日	Vascular IVR Joint Meeting 2017	Opening Remarks	平尾 幸一
2018年 1月13日	第6回九州CTCTレーニングカンファランス	術前に必要な血管と画像構築	堀上 謙作

病理部

学会・研究会

会期	学会名	演題	演者
2017年 4月27日~29日	第106回日本病理学会総 会	当院病理部におけるISO15189の 運用について(教育について)	片瀨 直 丸田 秀夫 米満 伸久
2017年 5月26日~28日	第58回日本臨床細胞学会 総会春季大会	大脳転移性血管肉腫の1例	浜田 有 片瀨 直 樋渡 崇史 今里 孝宏 丸田 秀夫 米満 伸久
2017年 6月16日~18日	第67回日本医学検査学会	病理検体確認作業における ウェアラブルカメラ使用の試み	片瀨 直 森本奈都美 浜田 有 樋渡 崇史 丸田 秀夫 米満 伸久
2017年 9月21日~23日	日本臨床検査自動化学会第 49大会	ISO15189認定取得から維持・管理 ~市中・中規模施設での経験から~	丸田 秀夫 米満 伸久

認知症疾患医療センター

講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	開 催 場 所	役 目
2017年 4月15日	メモリー・クラスルーム 初級編	佐世保中央病院	講 師
2017年 4月18日	院内医師向け認知症講義	佐世保中央病院	講 師
2017年 4月27日	医師向け認知症講義「高齢者自動車運転に関して」	佐世保中央病院	主 催
2017年 5月10日	院内部門報告会	佐世保中央病院	報 告
2017年 5月20日	「認知症家族の会」との交流発表会	長崎県医師会館	コメンテーター
2017年 5月27日	メモリー・クラスルーム 中級編	佐世保中央病院	講 師
2017年 6月10日	メモリー・クラスルーム 初級編	佐世保中央病院	講 師
2017年 6月15日	睡眠講演会 (久留米大学精神科 教授 内村 直尚 医師)	佐世保市 ホテルリソル	座 長
2017年 6月27日	院内医師向け認知症講義	佐世保中央病院	講 師
2017年 7月8日	認知症市民公開講座	アルカスSASEBO	主 催
2017年 7月15日	認知症予防トレーナー養成講座「認知症の基礎」	耀光リハビリテーション病院	講 師
2017年 8月26日	メモリー・クラスルーム 初級編	佐世保中央病院	講 師
2017年 9月30日	メモリー・クラスルーム 中級編	佐世保中央病院	講 師
2017年 9月30日	長崎嚥下研究会「認知症と摂食嚥下障害」	佐世保共済病院	講 師
2017年 10月14日	Caravan Mate 現任研修会	佐世保市 中央公民館	講 師
2017年 10月20日	認知症講演会「認知症とフレイル」	佐世保市 セントラルホテル	座 長
2017年 10月28日	メモリー・クラスルーム 初級編	佐世保中央病院	講 師
2017年 11月6日	認知症講演会「認知症事例検討会BPSD対策」	大分県大分市	講 師
2017年 11月10日	長崎県北認知症研究会「認知症と自動車運転」	佐世保市 ホテルリソル	座 長
2017年 11月11日	認知症予防トレーナー養成講座「認知症の基礎」	佐世保中央病院	講 師
2017年 11月16日	認知症BPSD・ケア研修会	長崎労災病院	講 師
2017年 11月21日	Humanitude講演会(本田美和子 医師)	佐世保中央病院	座 長
2017年 11月27日	講演会「認知症と睡眠障害」	佐世保市 セントラルホテル	講 師
2017年 12月1日	認知症ケースカンファレンス	長崎大学中部講堂	講 師

会 期	講演会・セミナー名	開 催 場 所	役 目
2017年 12月16日	メモリー・クラスルーム 初級編	佐世保中央病院	講 師
2018年 1月18日	院内経過報告会 認知症センター担当	佐世保中央病院	講 師
2018年 1月25日	認知症BPSD・ケア研修会	佐世保市総合医療センター	講 師
2018年 1月27日	メモリー・クラスルーム 中級編	佐世保中央病院	講 師
2018年 2月1日	社会福祉協議会講演会「認知症予防」	山祇地区公民会	講 師
2018年 2月8日	社会福祉協議会講演会「認知症予防」	清水地区公民会	講 師
2018年 2月9日	看護協会認知症対応力向上研修会	看護師キャリア支援センター	講 師
2018年 2月13日	薬剤師向け認知症初期相談講義	アルカスSASEBO	講 師
2018年 2月17日	薬剤師認知症対応力向上研修会「認知症の基礎」	佐世保市 中央公民館	講 師
2018年 2月23日	認知症WEBセミナー「急性期病棟におけるBPSDの対処法」	福岡県福岡市内	講 師
2018年 2月24日	メモリー・クラスルーム 初級編	佐世保中央病院	講 師
2018年 3月12日	認知症ケア推進委員会主催事例報告会	佐世保中央病院	座 長
2018年 3月17日	メモリー・クラスルーム 中級編	佐世保中央病院	講 師
2018年 3月17日	認知症サポート医等フォローアップ研修会	佐世保中央病院	主催・講師
2018年 3月18日	介護施設長認知症対応力向上研修会「認知症の基礎」	佐世保市労働福祉センター	講 師

健康増進センター

講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	開 催 場 所	役 割
2017年 7月19日	医科歯科合同学術講演会	アルカスSASEBO	講 師

座長

会 期	講演会・セミナー名	演 題	座 長
2017年 8月24日～25日	第58回日本人間ドック学会学術大会	一般演題	中尾 治彦